

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010 年報(1 月～12 月)

【検査部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスは、参加医療機関において分離された主要細菌の検出状況や薬剤感受性パターンの動向を把握するとともに、新たな耐性菌の早期検出等を目的とする。これらのデータを経時的に解析し公開することによって、抗菌薬の有効な使用方法や院内感染制御におけるベンチマークとなるような具体的かつ確実な情報を提供する。

【図表】

1. 病床別データ提出医療機関数
2. 検査材料別データ提出医療機関数、検体数、分離菌数
3. 検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌

髄液検体分離菌

4. 主要菌分離患者数と全医療機関の分離率分布
5. 特定の耐性菌分離患者数と全医療機関の分離率分布
6. 主要菌の抗菌薬感受性

Staphylococcus aureus (Methicillin-sensitive *Staphylococcus aureus* : MSSA)

Staphylococcus aureus (Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* : MRSA)

Staphylococcus epidermidis

Coagulase-negative staphylococci (CNS)

Enterococcus faecalis

Enterococcus faecium

Streptococcus pneumoniae

Streptococcus pyogenes

Streptococcus agalactiae

Escherichia coli

Klebsiella pneumoniae

Serratia marcescens

Pseudomonas aeruginosa

Acinetobacter baumannii

Haemophilus influenzae

Penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae* (PRSP) 外来患者対象

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010 年報(1 月～12 月)

【解説】

1. 病床別データ提出医療機関数（図表 1）

2010 年年報（2010 年 1 月～12 月）では 495 医療機関からデータの提出があり、国内 7655 医療機関の 6.5%を占めていた。200 床以上の医療機関で見ると、データ提出医療機関は 487（病床数不明を除く）であり、国内 2083 医療機関の 23.4%を占めていた。また、500 床以上の医療機関で見るとデータ提出医療機関は 4 割であり、大規模施設の参加が多い傾向にあった。

2. 検査材料別データ提出医療機関数、検体数、分離菌数（図表 2）

入院患者として報告された検体を集計した。検体から菌が分離された頻度（検体陽性率）は 47.1%で、検査材料別では呼吸器系検体が 66.7%と最も高く、髄液検体が 8.5%と最も低かった。

3. 検査材料別分離菌数割合（図表 3）

血液分離菌数（140,134 株）に対する主要分離菌の頻度では、上位 3 菌種は *S. aureus* が 13.3%、*E. coli* が 10.3%、*S. epidermidis* が 10.0%であった。

髄液分離菌数（4,523 株）に対する主要分離菌の頻度では、上位 3 菌種までブドウ球菌属が占め、*S. epidermidis* が 12.5%、*S. aureus* が 8.7%、表皮ブドウ球菌以外の CNS が 7.7%であった。次いで分離頻度が高かったのは *H. influenzae*、*S. pneumoniae* であり、それぞれ 3.1%、2.5%だった。

4. 主要菌分離患者数と全医療機関の分離率分布（図表 4）

主要菌分離患者数は 1,069,216 名であり、*S. aureus* 分離患者が 175,145 名（16.38%）と最も多く、*E. coli* 分離患者（118,958 名;11.13%）、*P. aeruginosa* 分離患者（80,160 名;7.50%）が次いでいた。

5. 特定の耐性菌分離患者数と全医療機関の分離率分布（図表 5）

検体提出患者（1,069,216 名）に対する MRSA 分離患者の頻度は各医療機関によって大きく異なるが、分離率は中央値で 9.1%（範囲 1.2-45.6%）であった。バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）、多剤耐性緑膿菌（MDRP）分離患者の分離率分布はそれぞれ 0～8.1%、0～9.7%であった。多剤耐性アシネトバクター属（MDRA）分離患者が 55 名報告されたが、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌（VRSA）分離患者の報告はなかった。

6. 主要菌の抗菌薬感受性（図表 6）

S. aureus では、MSSA はペニシリン G（PCG）に対しては 62%が耐性、エリスロマイシン（EM）に対しては 24%が非感性を示したが、セファゾリン（CEZ）にはほぼ全ての株が感性であり、レボフロキサシン（LVFX）には 89%が感性を示した。MRSA はバンコマイシン（VCM）に対しては全ての株が、テイコプラニン（TEIC）、リネゾリド（LZD）、ST 合剤(ST) に対してはほとんど全ての株が感性を示した。一方ミノサイクリン（MINO）、クリンダマイシン（CLDM）、LVFX に対する感性株は、それぞれ 39%、19%、9%であった。

S. epidermidis の 81%がメチシリン耐性株であったが、VCM 耐性株の報告はなかった。しかし、TEIC に対しては被検株の 4%が中等度耐性、1%が耐性を示した。表皮ブドウ球菌以外の CNS では 75%がメチシリン耐性株であったが、表皮ブドウ球菌と同様に VCM 耐性株の報告はなかった。TEIC に対しては被検株の 2%が中等度耐性、1%が耐性を示した。

データ集計日： 2011 年 4 月 7 日
公開情報掲載日：2011 年 9 月 2 日

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010 年報(1 月～12 月)

腸球菌では、*E. faecalis* の 99%がアンピシリン（ABPC）に感性を示したが、*E. faecium* は 86%が耐性であった。また *E. faecalis* は VCM、TEIC に対してほぼ全ての株が感性を示したが、*E. faecium* は VCM に対し被検株の 3%が非感性（中等度耐性 1%、耐性 2%）と判定された。

S. pneumoniae の米国 CLSI2007（M100-S17）に準拠した場合の PCG 非感性株は 63%（中等度耐性 42%、耐性 21%）であった。また、メロペネム（MEPM）に対しては 23%が非感性（中等度耐性 18%、耐性 5%）であったが、セフトキシム（CTX）、LVFX に対しては、それぞれ 92%、97%が感性であり、VCM に対しては被検株の全てが感性を示した。外来で分離された PCG 耐性株に限った場合、MEPM に対しては 35%が非感性であったが、CTX、LVFX、VCM に対しては入院患者から分離された全肺炎球菌のものとほぼ同様の割合であった。

S. pyogenes ではペニシリン非感性株はみられなかった。近年マクロライド耐性株の出現が問題となっているが、ほぼ半数が EM 耐性であった。

腸内細菌科である *E. coli*、*K. pneumoniae*、*S. marcescens* の第 3 世代セファロスポリン系抗菌薬である CTX 及びセフトジジム（CAZ）に対する感性株の頻度は *E. coli* で 86%と 93%、*K. pneumoniae* で 94%と 96%、*S. marcescens* で 78%と 90%であった。また、イミペネム（IPM/CS）に対する感性株の頻度は *E. coli* と *K. pneumoniae* でそれぞれ 100%、*S. marcescens* で 99%であり、LVFX に対する感性株の頻度は *E. coli* で 69%、*K. pneumoniae* で 96%、*S. marcescens* で 90%であった。

P. aeruginosa では、カルバペネム系の IPM/CS、MEPM に対してはそれぞれ 74%、80%の株が感性を示した。アミノグリコシド系のゲンタマイシン（GM）とアミカシン（AMK）に対しては 81%、93%が、フルオロキノロン系の LVFX に対しては 75%が感性を示した。

A. baumannii では、カルバペネム系の IPM/CS、MEPM に対してはそれぞれ 97%、96%の株が感性を示した。アミノグリコシド系の AMK に対しては 95%が、フルオロキノロン系の LVFX に対しては 84%が感性を示した。

H. influenzae では、ABPC 非感性株の頻度は 56%（中等度耐性 19%、耐性 37%）であり、スルバクタム/アンピシリン（SBT/ABPC）とクラブラン酸アモキシシリン（CVA/AMPC）に対しては、それぞれ 33%、26%が耐性であった。

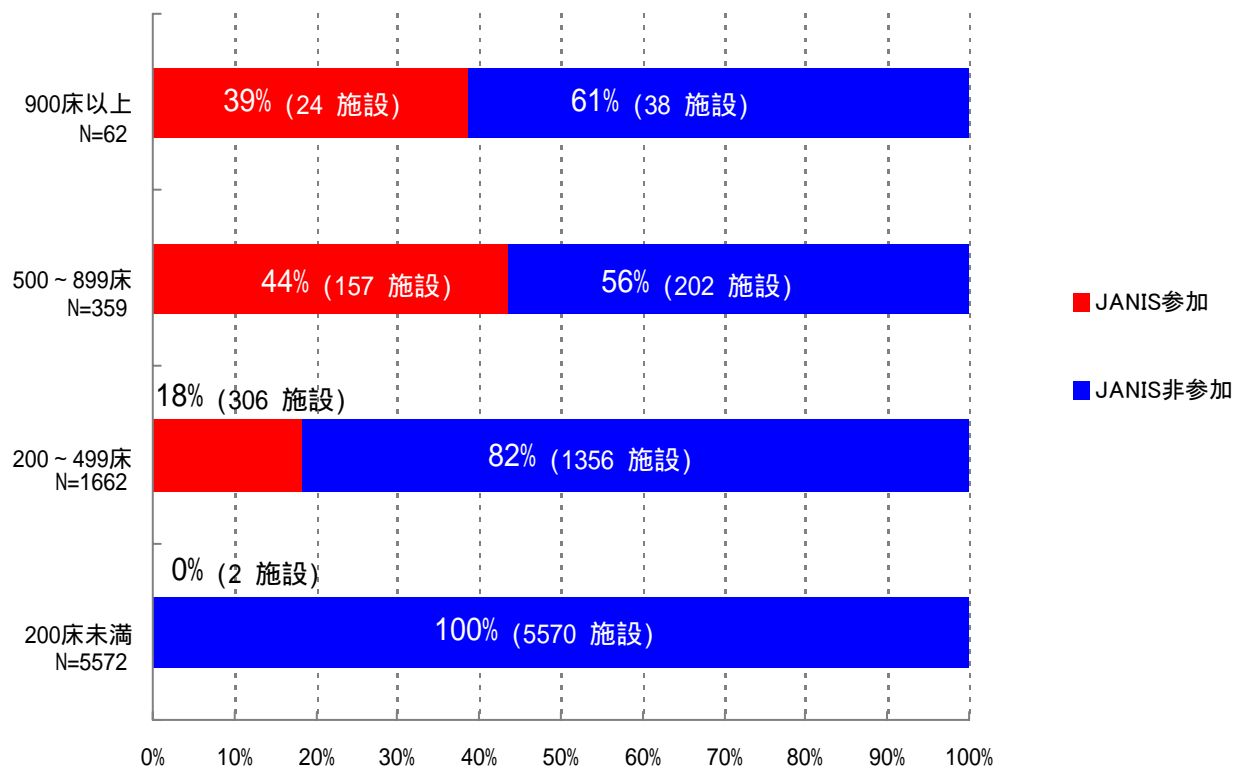
7. 精度管理について

集計データは各医療機関からの報告の集計であり、検査上の精度管理は各医療機関に任されている。ただし、国内で過去に報告が無い薬剤耐性菌である PCG、ABPC、VCM、LZD 非感性の *S. pyogenes*、VCM、LZD 非感性の *S. agalactiae*、VCM、LZD 非感性の *S. pneumoniae*（外来含む）、VCM 耐性の *S. aureus*（外来含む）の報告を行った医療機関、および検体提出患者数や *E. coli* の報告がゼロであった医療機関に対して問い合わせを行い、データに疑義が生じた 39 医療機関に関しては、全データを集計から除外した。このため、年報の結果は月報や四半期報の結果とは異なる場合がある。

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

1.病床別データ提出医療機関数



JANIS参加施設数 = 今期データ提出医療機関数
JANIS非参加施設数 = 平成21年度統計全国医療機関数 - 今期データ提出医療機関数

病床数	平成21年度 統計全国医療機関数 *	データ提出医療機関数 (平成21年度 統計全国医療機関数に対する 2010年データ提出医療機関数の割合(%))
900床以上	62	24 (38.7)
500～899床	359	157 (43.7)
200～499床	1,662	306 (18.4)
200床未満	5,572	2 (0.0)
病床数不明	-	6 (-)
合計	7,655	495 (6.5)

* 厚生統計要覧(平成21年度)を参照した
精神科病院はのぞく

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

2.検査材料別データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	データ提出 医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	495	952,939	635,636 (1,326,662)
尿検体	494	357,654	193,210 (290,054)
便検体	494	256,421	133,120 (259,235)
血液検体	487	722,360	120,133 (140,134)
髄液検体	461	40,688	3,459 (4,523)
その他	495	584,021	286,797 (478,189)
合計	495	2,914,083	1,372,355 (2,498,797)

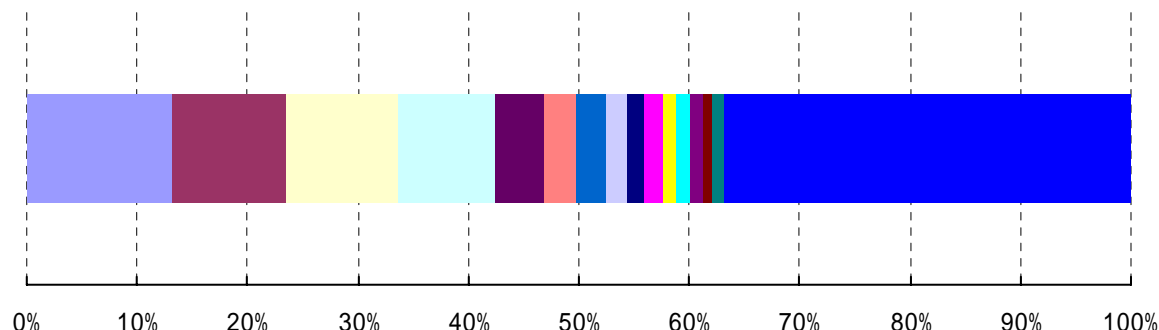
入院患者として報告された検体を集計した
集計対象菌名コード:コメントのみ(9999)を除く全コード
集計対象については仕様確認書を参照
検体陽性率 = 陽性検体数/検体数

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

3.検査材料別分離菌数割合

血液検体分離菌 (n=140,134)



- Staphylococcus aureus (13.3%)
- Escherichia coli (10.3%)
- Staphylococcus epidermidis (10.0%)
- Coagulase-negative staphylococci (CNS)* (8.8%)
- Klebsiella pneumoniae (4.5%)
- Pseudomonas aeruginosa (3.0%)
- Enterococcus faecalis (2.6%)
- Enterococcus faecium (1.7%)
- Enterobacter cloacae (1.7%)
- Candida albicans (1.6%)
- Bacillus sp. (1.3%)
- Bacillus cereus (1.2%)
- Klebsiella oxytoca (1.1%)
- Streptococcus pneumoniae (1.0%)
- Serratia marcescens (1.0%)
- その他 (36.8%)

*菌名コード:1311, 1313～1325と報告された菌(1312:Staphylococcus epidermidisは対象外)

入院患者として報告された検体を集計した

分離頻度が16位以下は「その他」に集計した

検査材料分離菌数割合 = 各分離菌 / 血液検体分離菌 × 100

集計対象菌名コード:コメントのみ(9999)を除く全コード

集計対象分離菌数:140134

集計対象検体:静脈血(コード番号:401)、動脈血(コード番号:402)

菌名コードについて : http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver4.0_20090925.xls

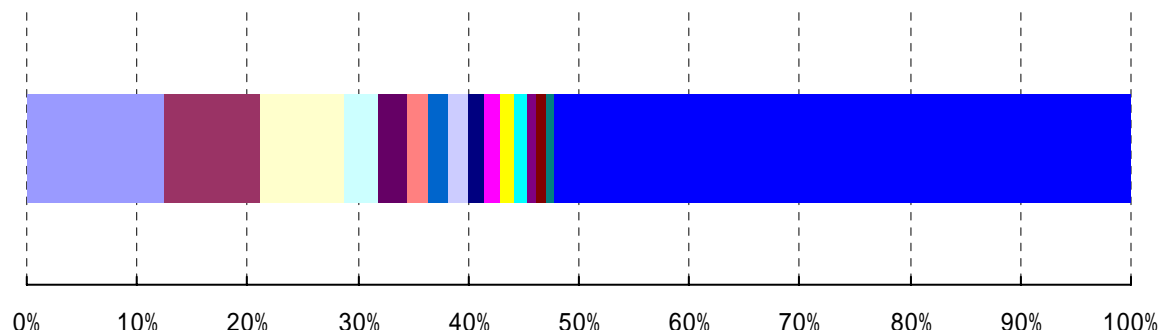
検査材料コードについて : http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype_ver1.0_20070701.xls

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

3.検査材料別分離菌数割合

髄液分離菌 (n=4,523)



■	Staphylococcus epidermidis (12.5%)
■	Staphylococcus aureus (8.7%)
■	Coagulase-negative staphylococci (CNS)* (7.7%)
■	Haemophilus influenzae (3.1%)
■	Streptococcus pneumoniae (2.5%)
■	Cryptococcus neoformans (1.9%)
■	Corynebacterium sp. (1.8%)
■	Propionibacterium acnes (1.7%)
■	Escherichia coli (1.5%)
■	Pseudomonas aeruginosa (1.5%)
■	Enterococcus faecalis (1.2%)
■	Enterobacter aerogenes (1.1%)
■	Klebsiella pneumoniae (1.0%)
■	Streptococcus agalactiae (0.9%)
■	Bacillus sp. (0.8%)
■	その他 (52.2%)

*菌名コード:1311, 1313～1325と報告された菌(1312:Staphylococcus epidermidisは対象外)

入院患者として報告された検体を集計した

分離頻度が16位以下は「その他」に集計した

検査材料分離菌数割合 = 各分離菌 / 髄液分離菌 × 100

集計対象菌名コード:コメントのみ(9999)を除く全コード

集計対象分離菌数:4523

集計対象検体:髄液(コード番号:403)

菌名コードについて : http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver4.0_20090925.xls

検査材料コードについて : http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype_ver1.0_20070701.xls

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

4.主要菌分離患者数と全医療機関の分離率分布

	*2010年 1～3月	*2010年 4～6月	*2010年 7～9月	*2010年 10～12月	*2010年 合計	全医療機関(2010年)の 分離率分布
検体提出患者数	309,644	308,069	301,852	275,001	1,069,216	
S. aureus	52,198 (16.86%)	50,250 (16.31%)	50,169 (16.62%)	43,684 (15.89%)	175,145 (16.38%)	4.25 16.25 47.93
S. epidermidis	13,743 (4.44%)	14,641 (4.75%)	14,618 (4.84%)	12,128 (4.41%)	47,523 (4.44%)	0.00 3.03 36.50
S. pneumoniae	10,017 (3.24%)	10,331 (3.35%)	5,875 (1.95%)	7,969 (2.90%)	31,426 (2.94%)	0.00 2.08 24.61
E. faecalis	17,196 (5.55%)	17,339 (5.63%)	17,568 (5.82%)	15,180 (5.52%)	59,458 (5.56%)	0.00 4.76 24.81
E. faecium	5,496 (1.77%)	5,652 (1.83%)	5,065 (1.68%)	4,213 (1.53%)	18,674 (1.75%)	0.00 1.37 22.78
E. coli	34,369 (11.10%)	34,488 (11.19%)	33,917 (11.24%)	29,382 (10.68%)	118,958 (11.13%)	2.12 10.80 40.03
K. pneumoniae	14,407 (4.65%)	14,853 (4.82%)	20,252 (6.71%)	16,713 (6.08%)	60,040 (5.62%)	0.00 5.52 22.14
Enterobacter属	9,583 (3.09%)	10,640 (3.45%)	14,470 (4.79%)	10,732 (3.90%)	40,363 (3.78%)	0.00 3.33 16.37
S. marcescens	4,106 (1.33%)	4,183 (1.36%)	4,684 (1.55%)	4,049 (1.47%)	15,116 (1.41%)	0.00 1.19 19.36
P. aeruginosa	21,429 (6.92%)	21,200 (6.88%)	25,769 (8.54%)	22,076 (8.03%)	80,160 (7.50%)	0.00 7.17 56.01
Acinetobacter属	3,824 (1.23%)	4,091 (1.33%)	6,209 (2.06%)	4,231 (1.54%)	16,107 (1.51%)	0.00 1.24 13.92

入院患者として報告された検体を集計した

集計対象については仕様確認書を参照

* 各耐性菌の分離率 = 各耐性菌分離患者数 / 検体提出患者数 × 100

箱ひげ図の説明はこちら: <http://www.nih-janis.jp/datause/index.html>

重複処理の方法については巻末を参照。

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

5.特定の耐性菌分離患者数と全医療機関の分離率分布

	*2010年 1～3月	*2010年 4～6月	*2010年 7～9月	*2010年 10～12月	*2010年 合計	全医療機関(2010年)の 分離率分布
検体提出患者数	309,644	308,069	301,852	275,001	1,069,216	
MRSA	30,515 (9.85%)	30,193 (9.80%)	29,246 (9.69%)	24,762 (9.00%)	100,845 (9.43%)	1.16 9.13 45.59 H
VRSA	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0.00
VRE	161 (0.05%)	145 (0.05%)	158 (0.05%)	56 (0.02%)	520 (0.05%)	0.00 0.00 8.07
MDRP	559 (0.18%)	507 (0.16%)	629 (0.21%)	509 (0.19%)	1,872 (0.18%)	0.00 0.06 9.74 H
PRSP	4,651 (1.50%)	4,888 (1.59%)	2,806 (0.93%)	3,835 (1.39%)	14,769 (1.38%)	0.00 0.83 15.89 H
カルバペネム耐性 緑膿菌	3,758 (1.21%)	3,639 (1.18%)	4,287 (1.42%)	3,517 (1.28%)	13,425 (1.26%)	0.00 1.07 14.62 H
カルバペネム耐性 セラチア	39 (0.01%)	38 (0.01%)	40 (0.01%)	26 (0.01%)	131 (0.01%)	0.00 0.00 0.78 H
第三世代セファロスポ リン耐性大腸菌	2,385 (0.77%)	2,532 (0.82%)	2,627 (0.87%)	2,528 (0.92%)	9,196 (0.86%)	0.00 0.65 12.65 H
第三世代セファロスポ リン耐性肺炎桿菌	527 (0.17%)	533 (0.17%)	634 (0.21%)	520 (0.19%)	2,050 (0.19%)	0.00 0.07 6.74 H
MDRA	10 (0.00%)	11 (0.00%)	22 (0.01%)	11 (0.00%)	55 (0.01%)	0.00 0.00 0.68
フルオロキノロン 耐性大腸菌	6,371 (2.06%)	6,337 (2.06%)	6,421 (2.13%)	5,796 (2.11%)	22,996 (2.15%)	0.00 2.16 26.93 H

入院患者として報告された検体を集計した

集計対象については仕様確認書を参照

* 各耐性菌の分離率 = 各耐性菌分離患者数 / 検体提出患者数 × 100

箱ひげ図の説明はこちら: <http://www.nih-janis.jp/datause/index.html>

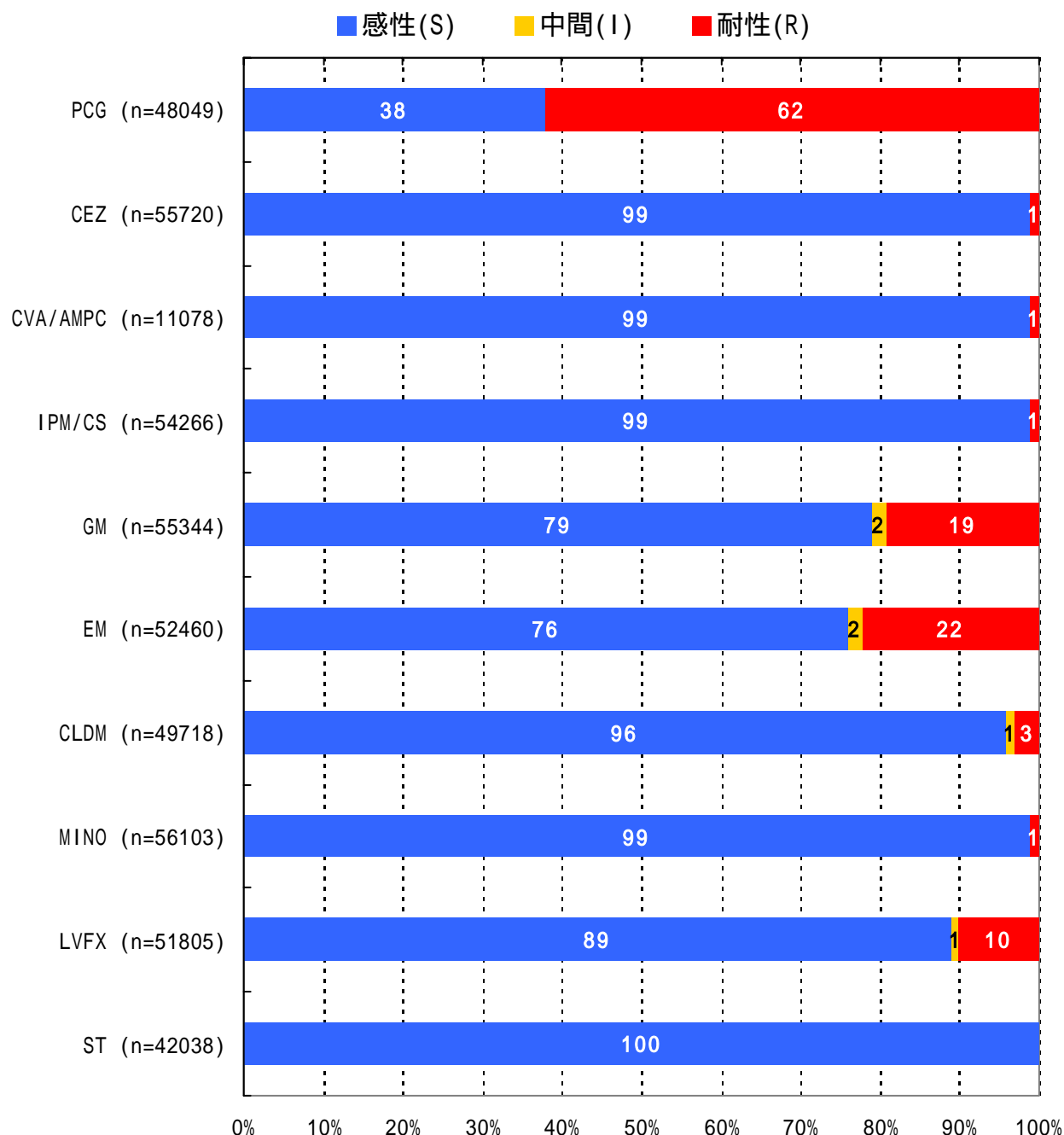
重複処理の方法については巻末を参照。

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA)**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

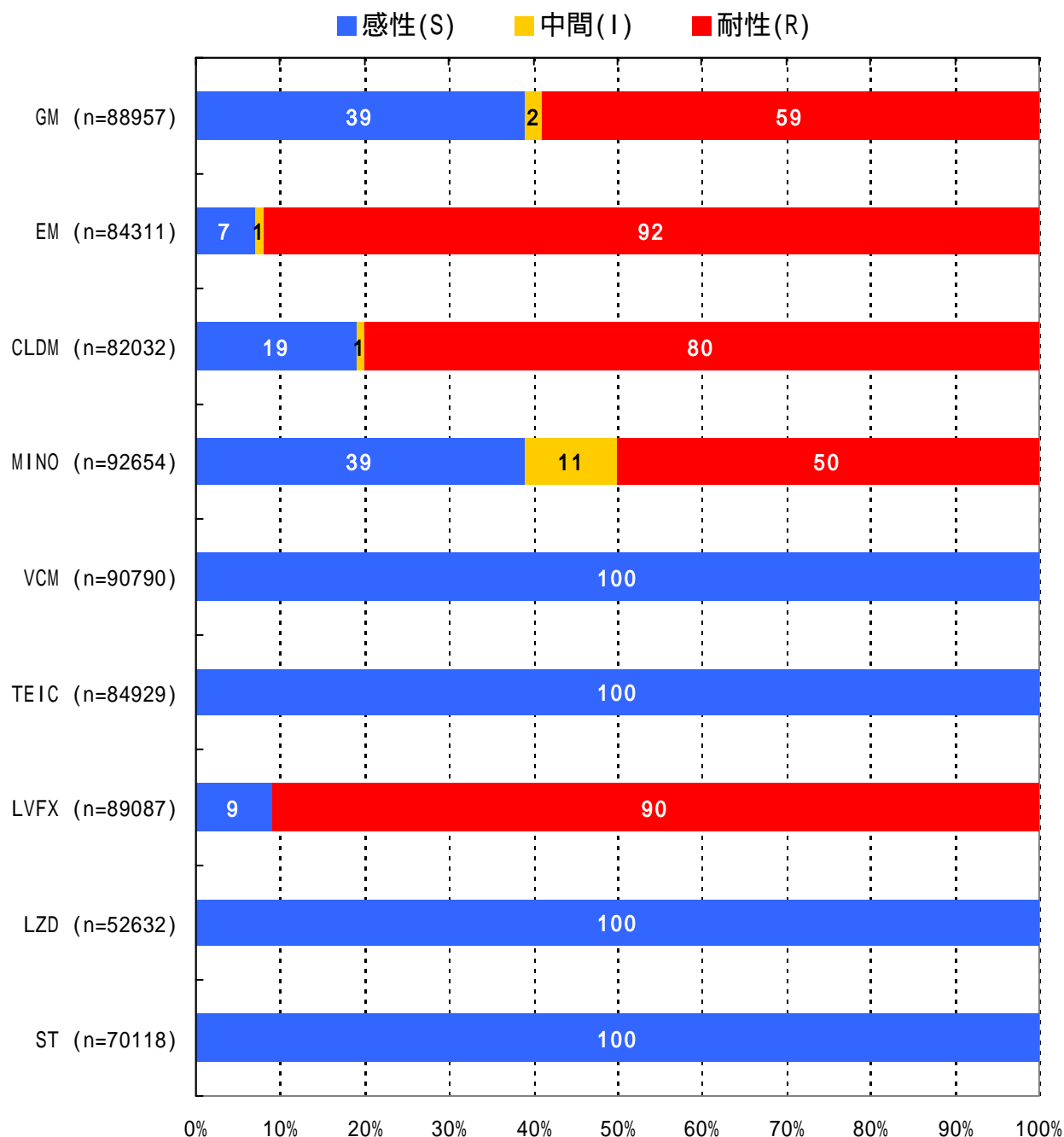
** 菌名コード: 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208(オキサシリン)の感受性結果「S」の菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA)**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

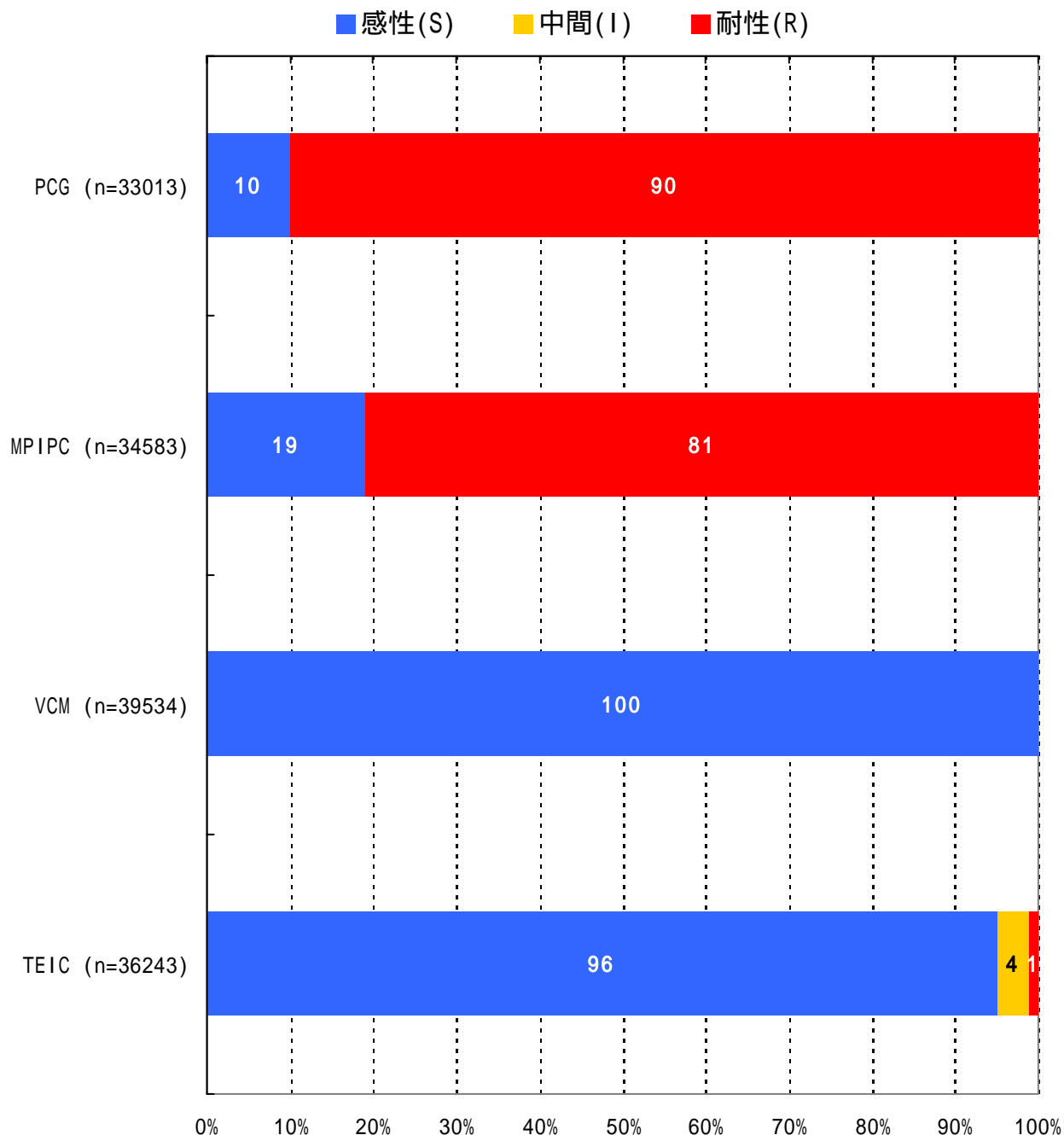
** 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208(オキサシリン)の感受性結果「R」の菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

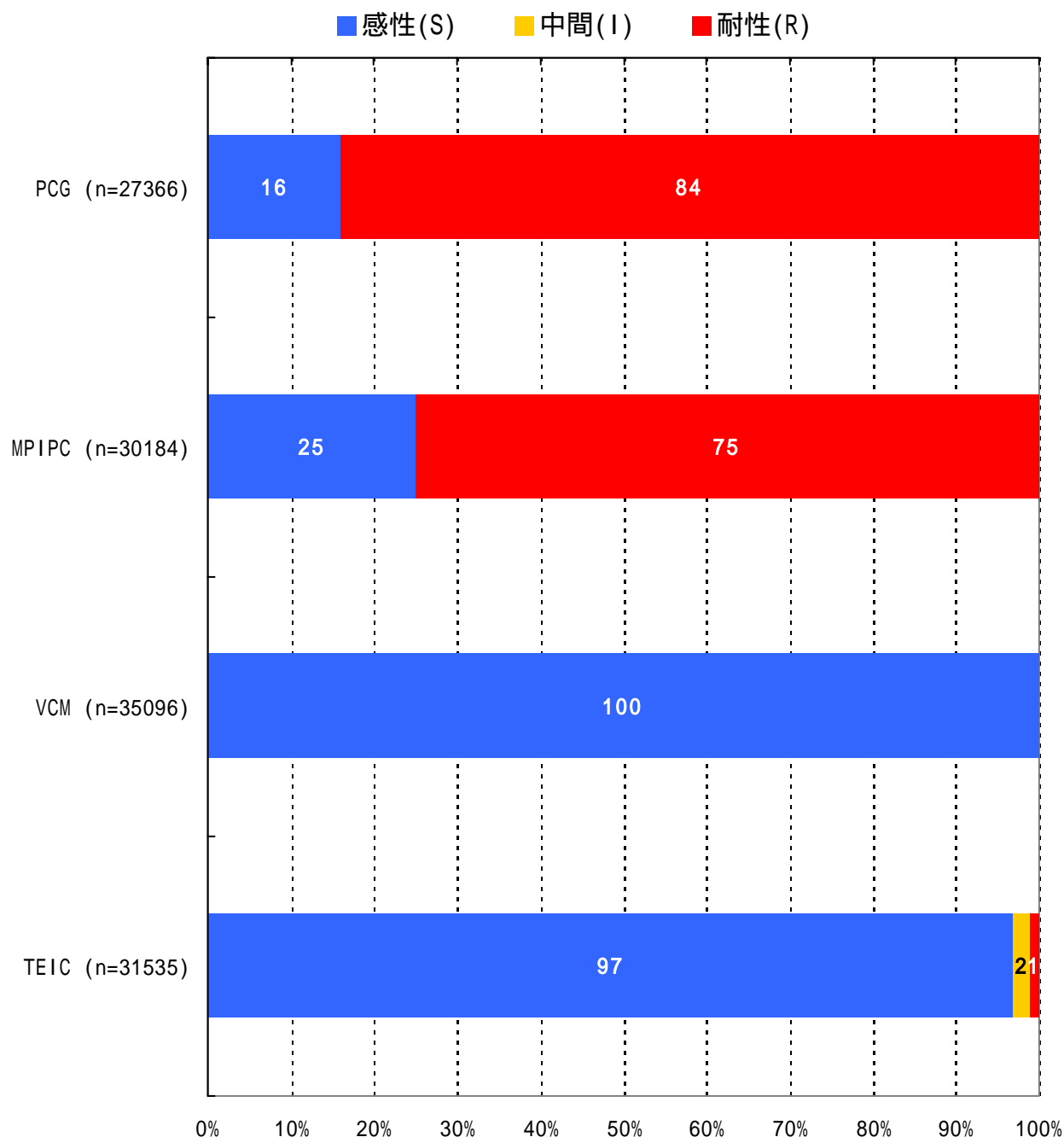
** 菌名コード: 1312と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Coagulase-negative staphylococci (CNS)**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

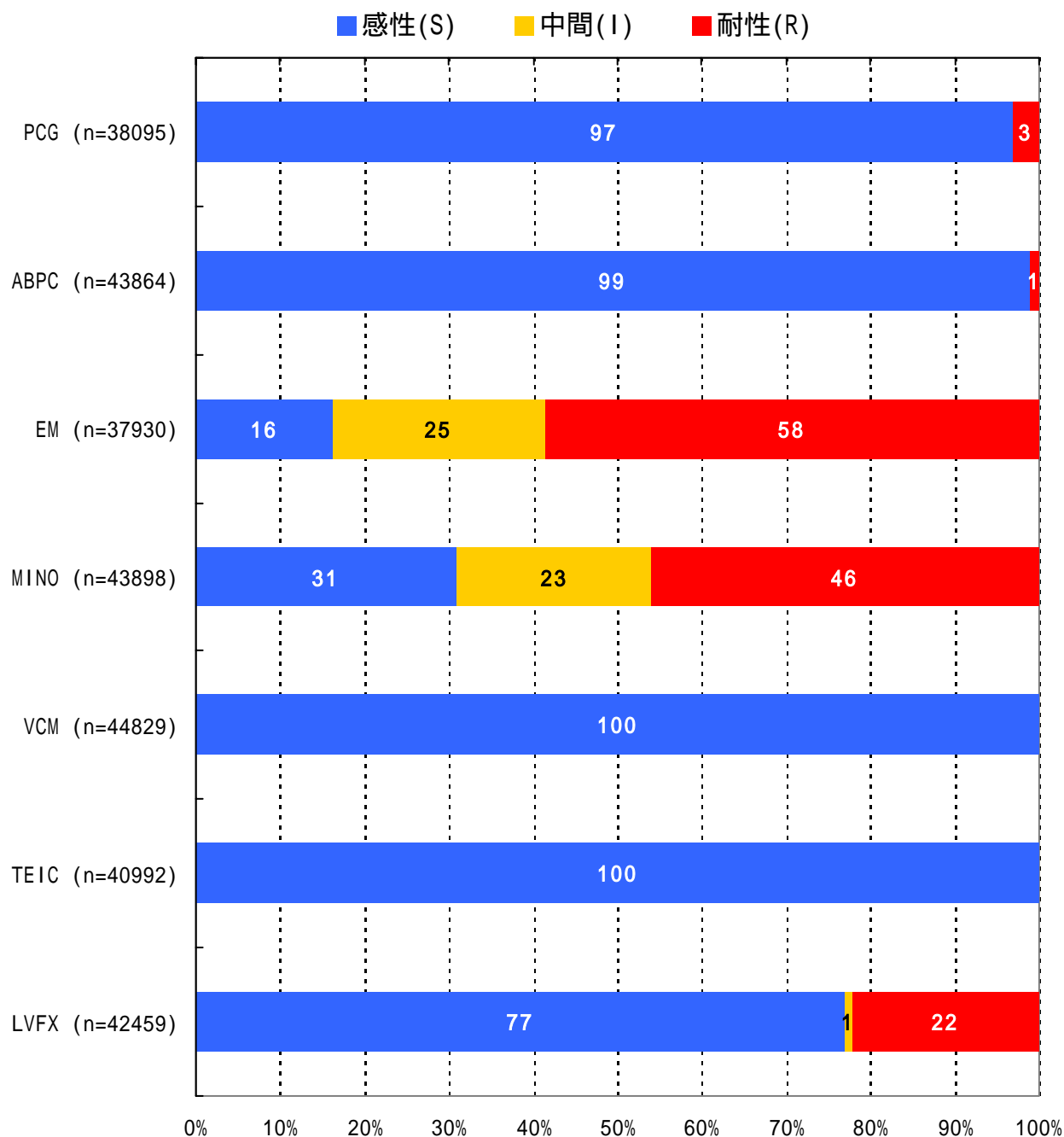
** 菌名コード: 1311, 1313～1325と報告された菌(1312: Staphylococcus epidermidisは対象外)

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

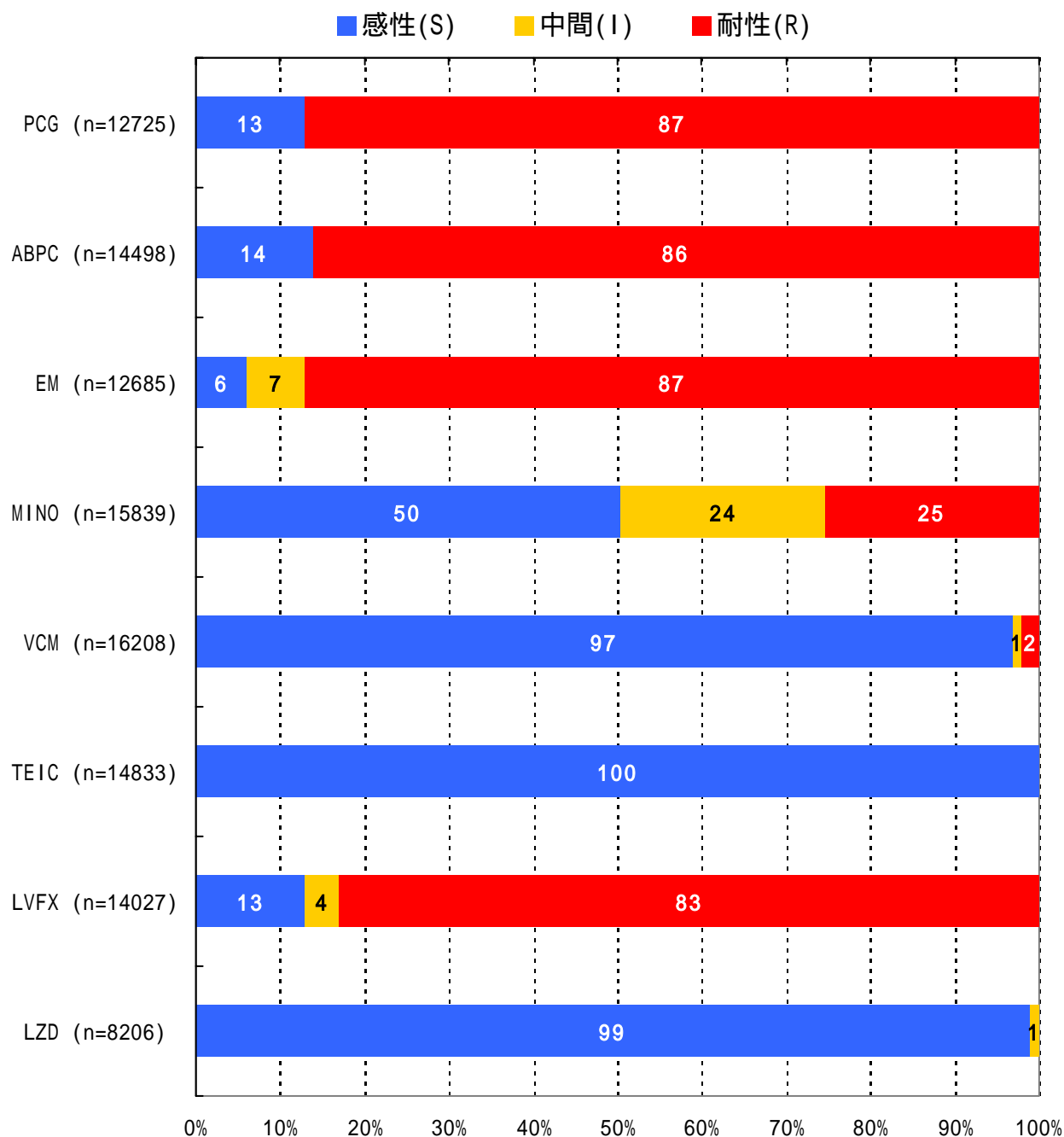
** 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecium**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

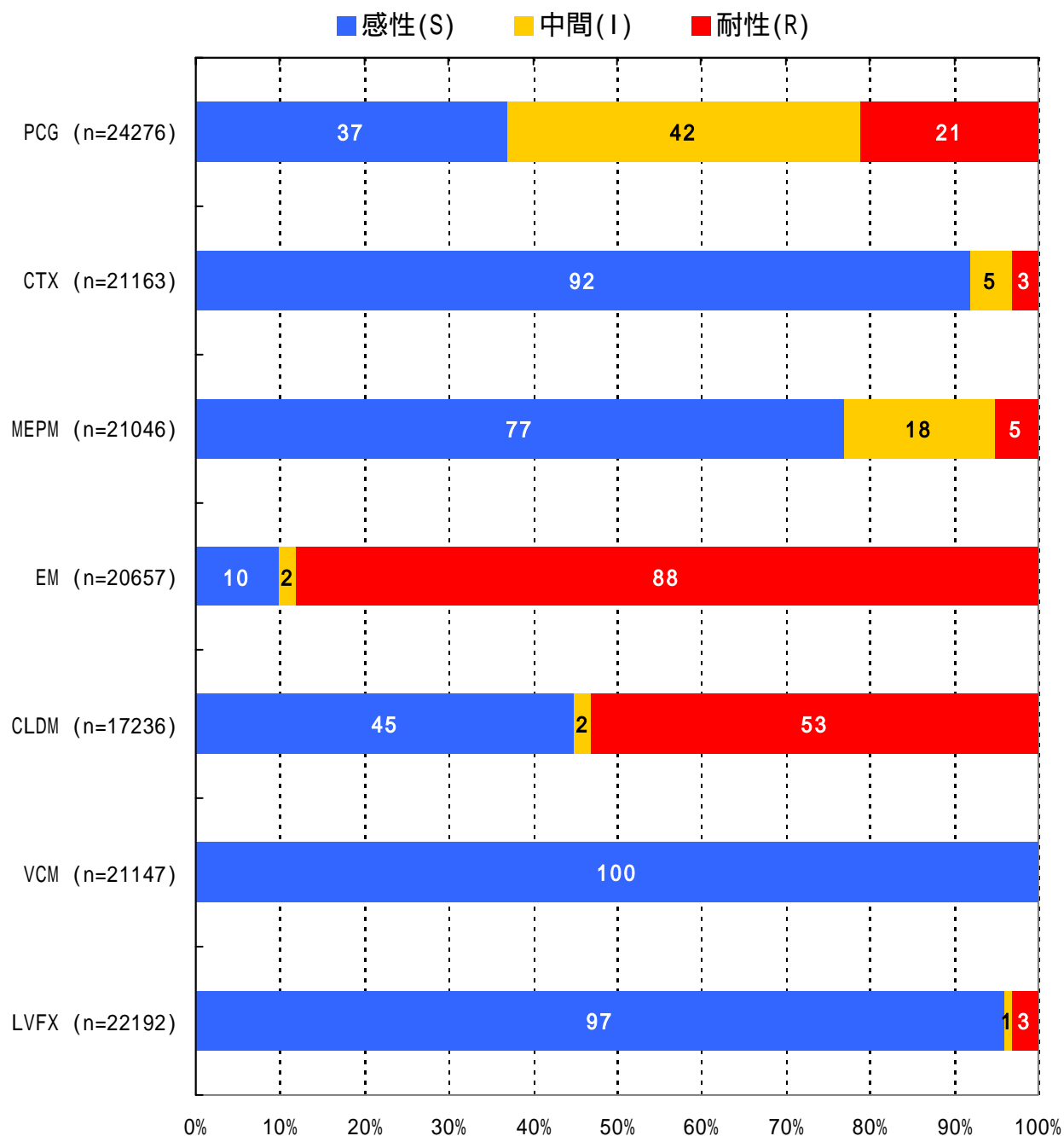
** 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

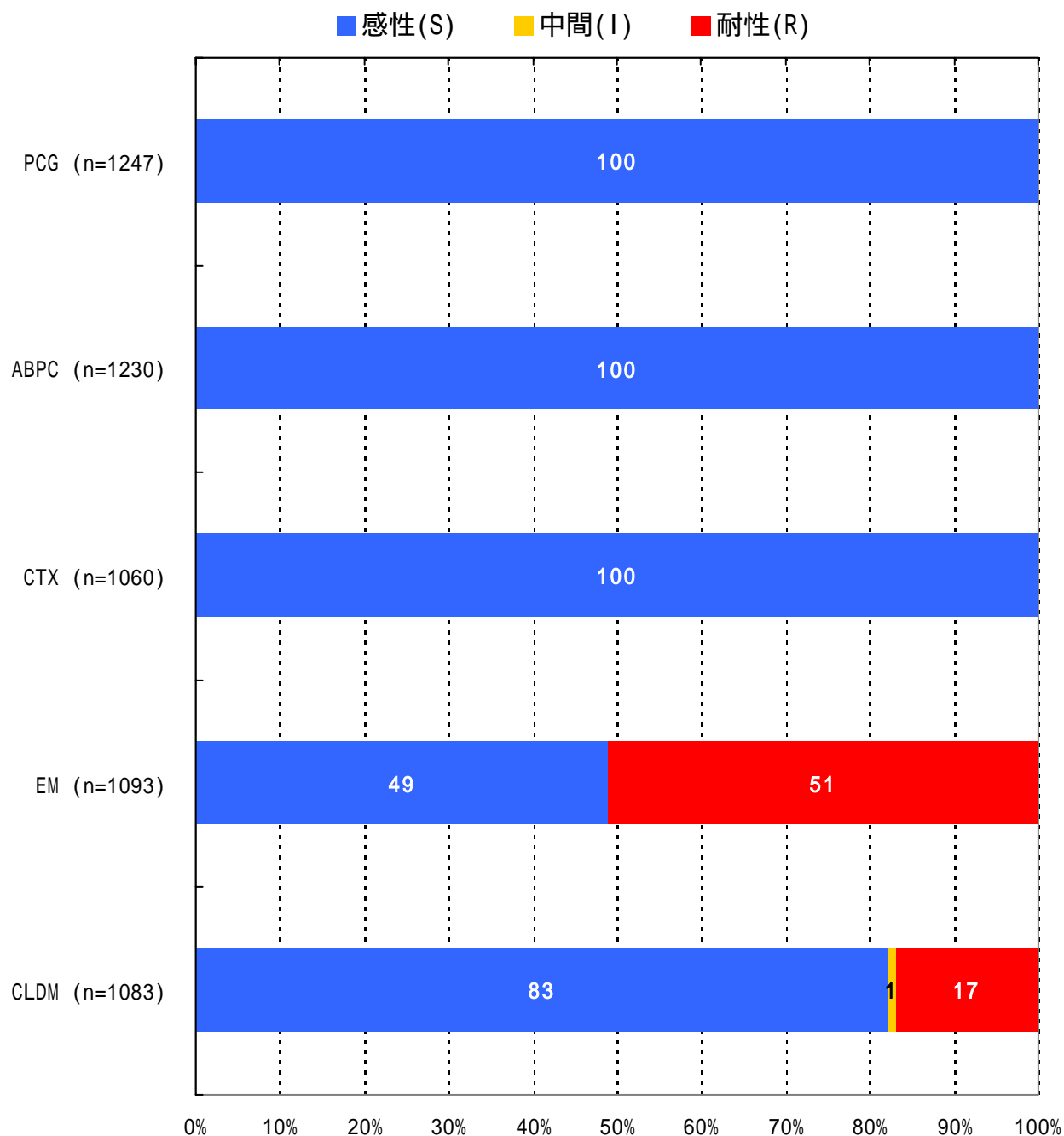
** 菌名コード:1131と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

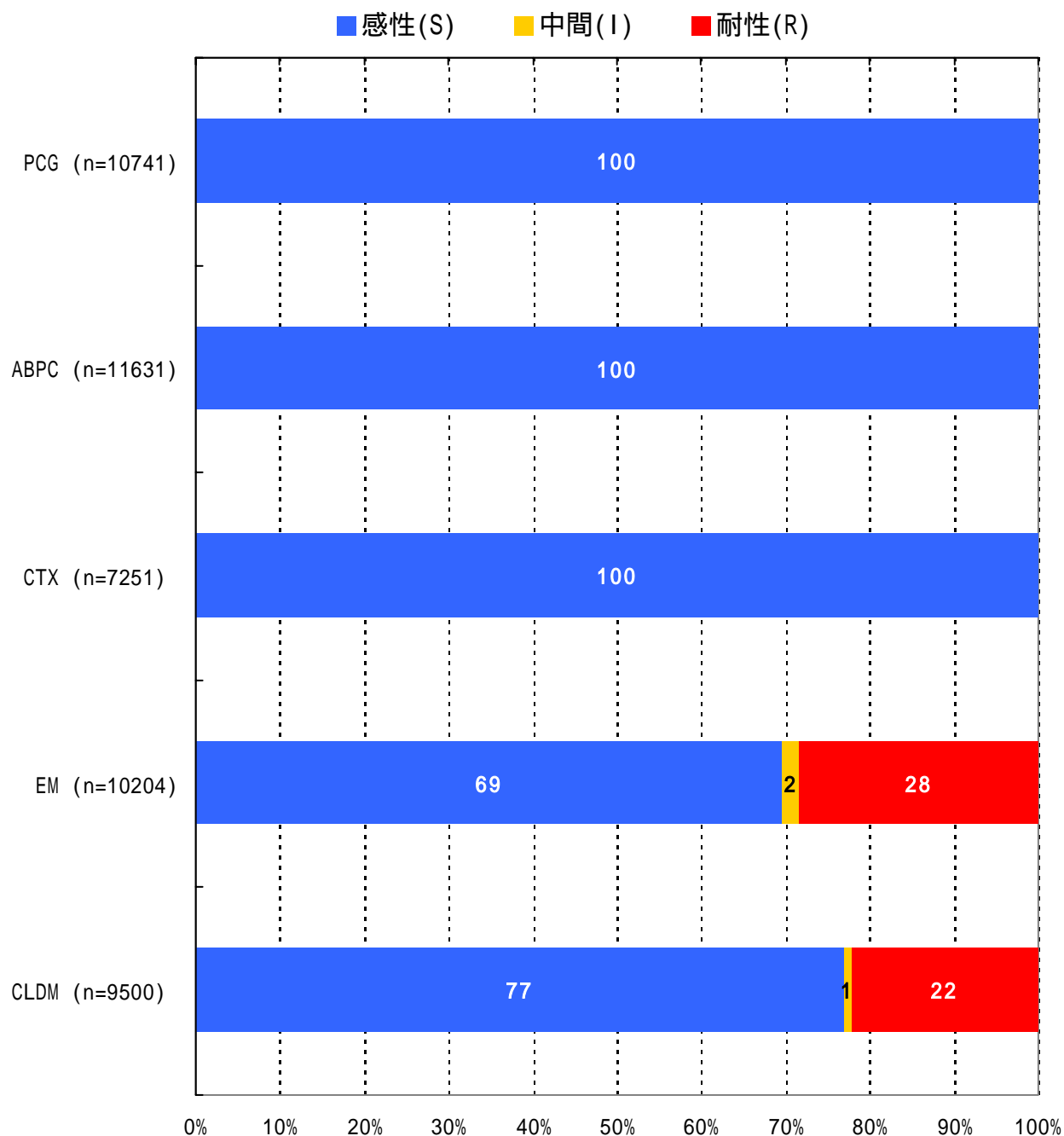
** 菌名コード:1111と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

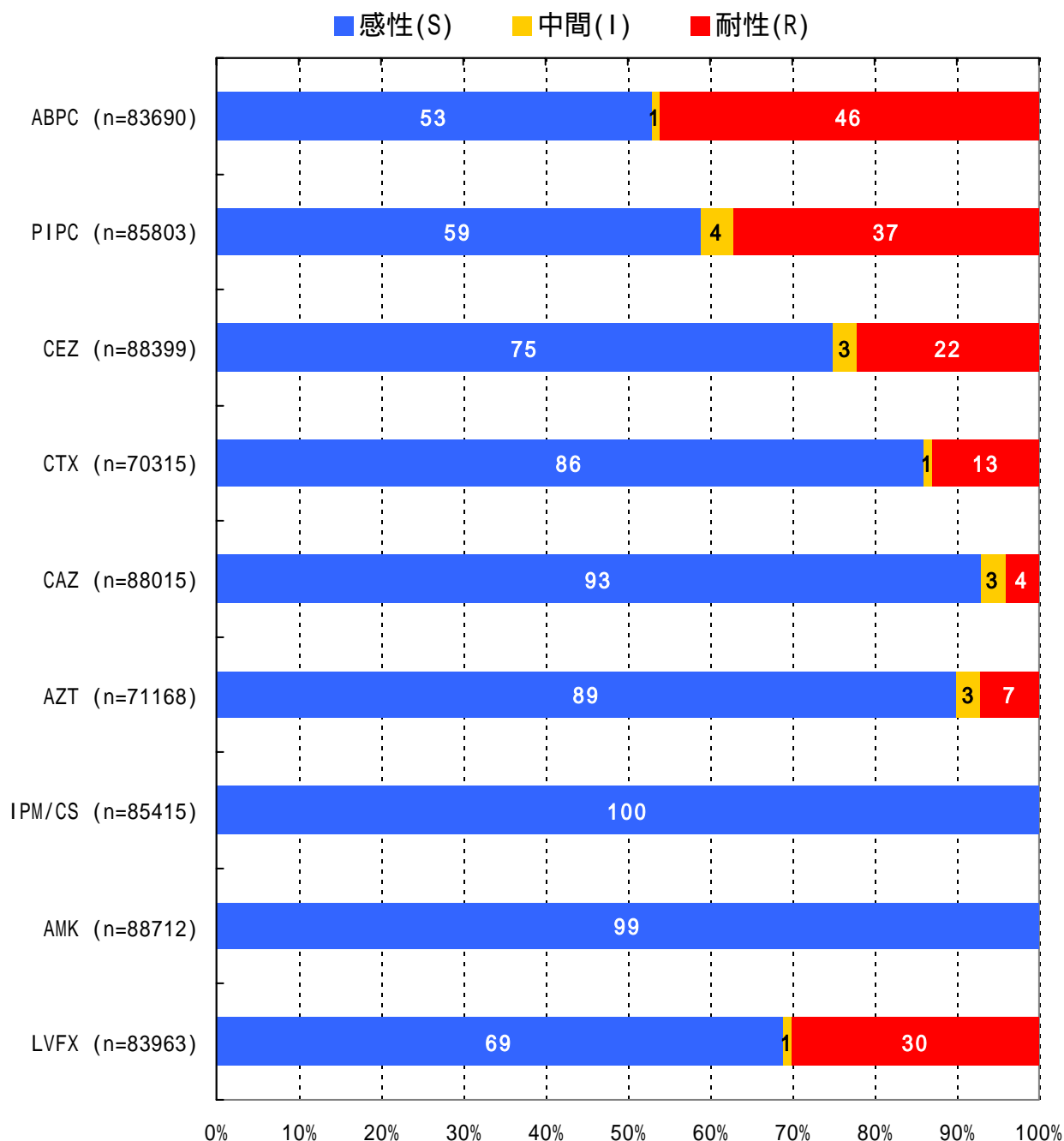
** 菌名コード:1114と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

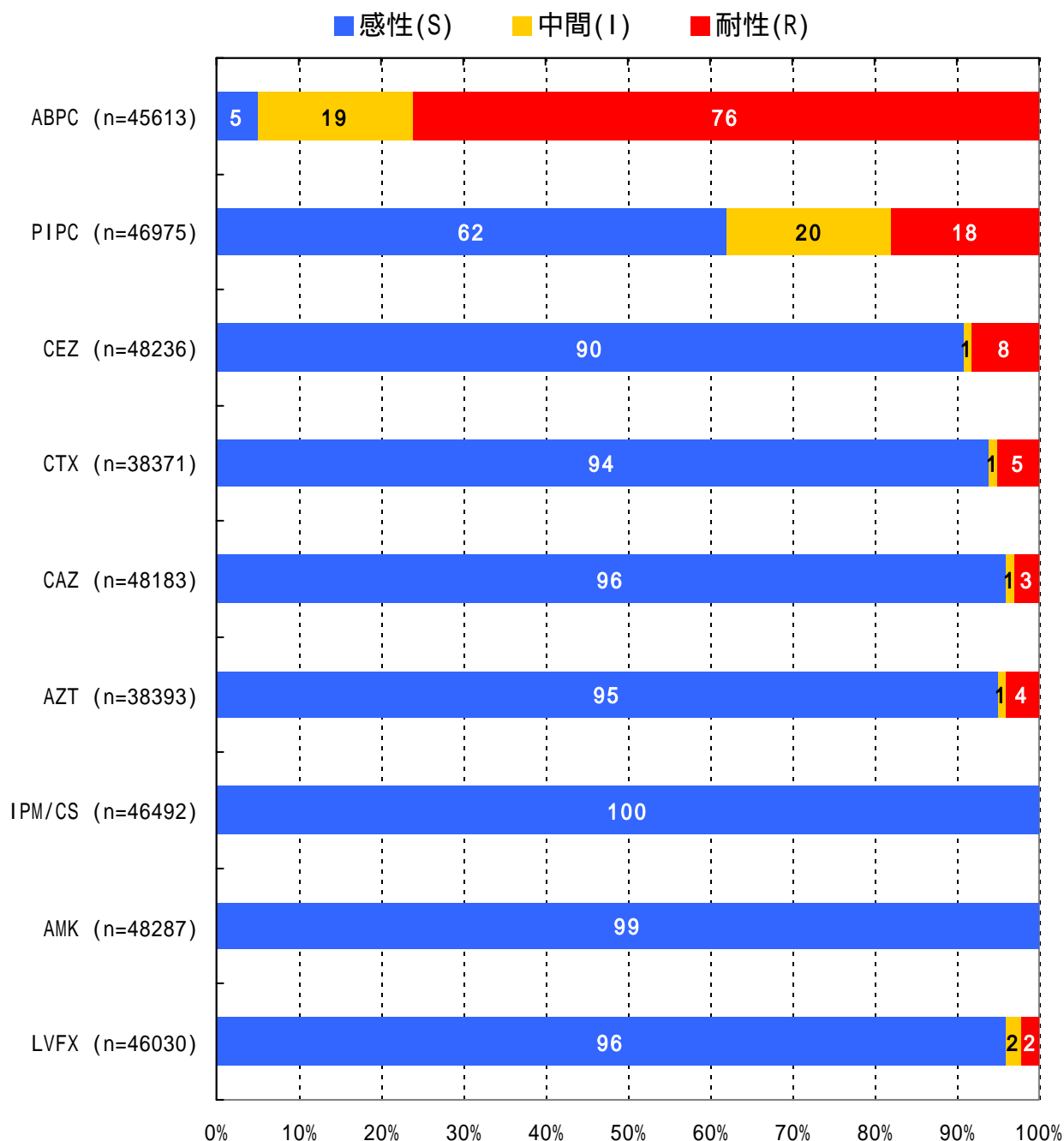
** 菌名コード: 2001～2007と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Klebsiella pneumoniae**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

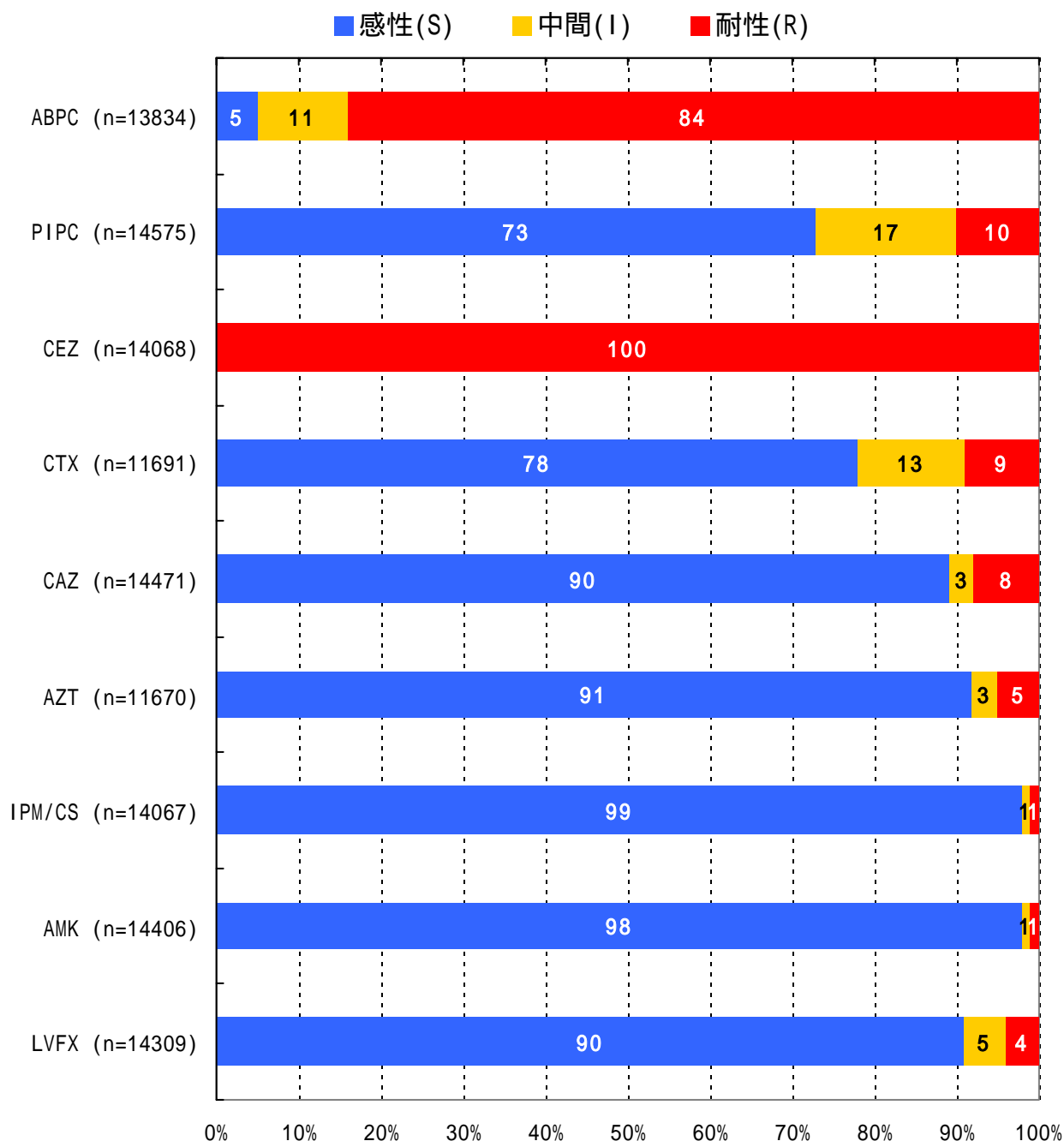
** 菌名コード: 2351と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

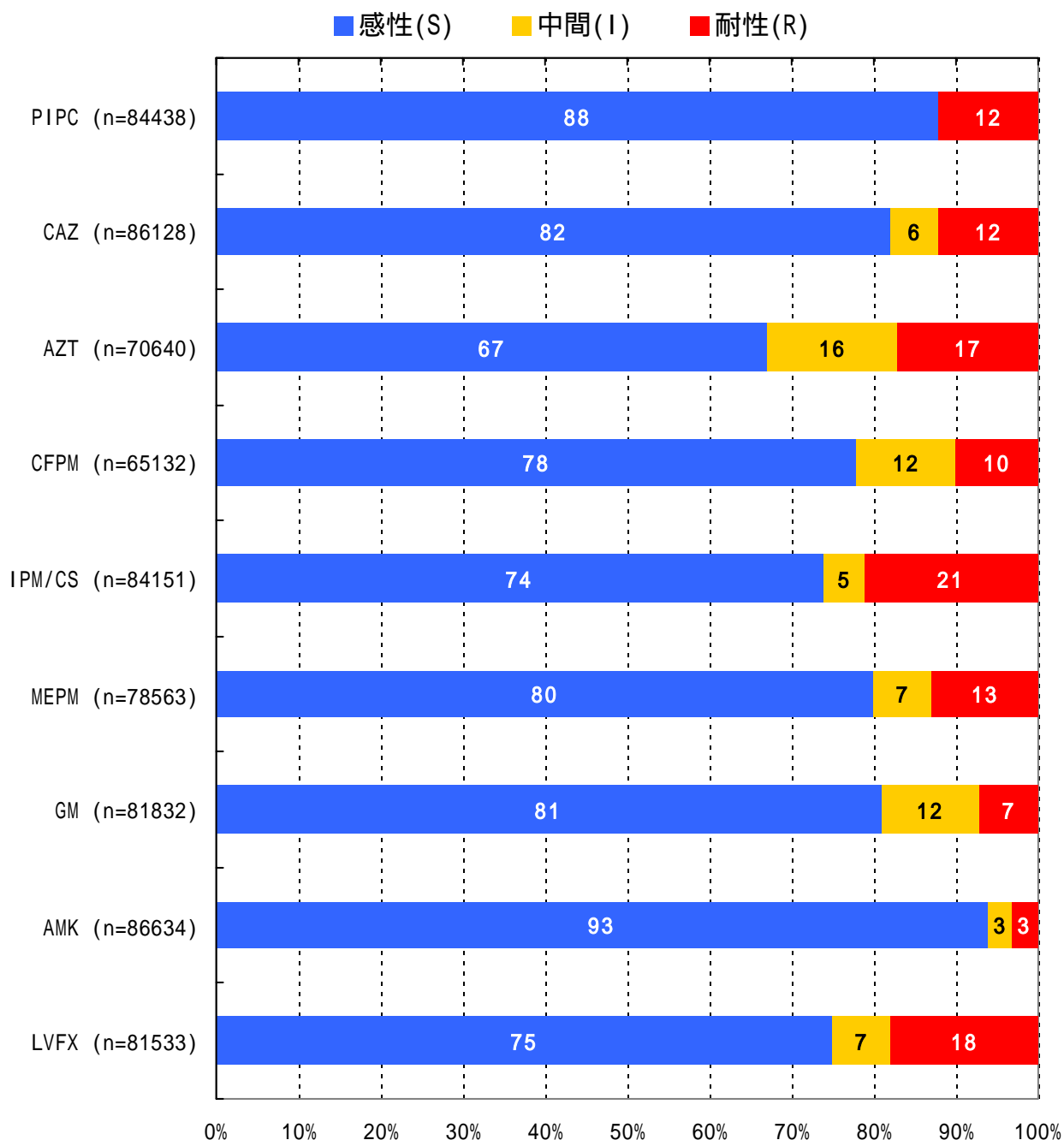
** 菌名コード: 2101と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Pseudomonas aeruginosa**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

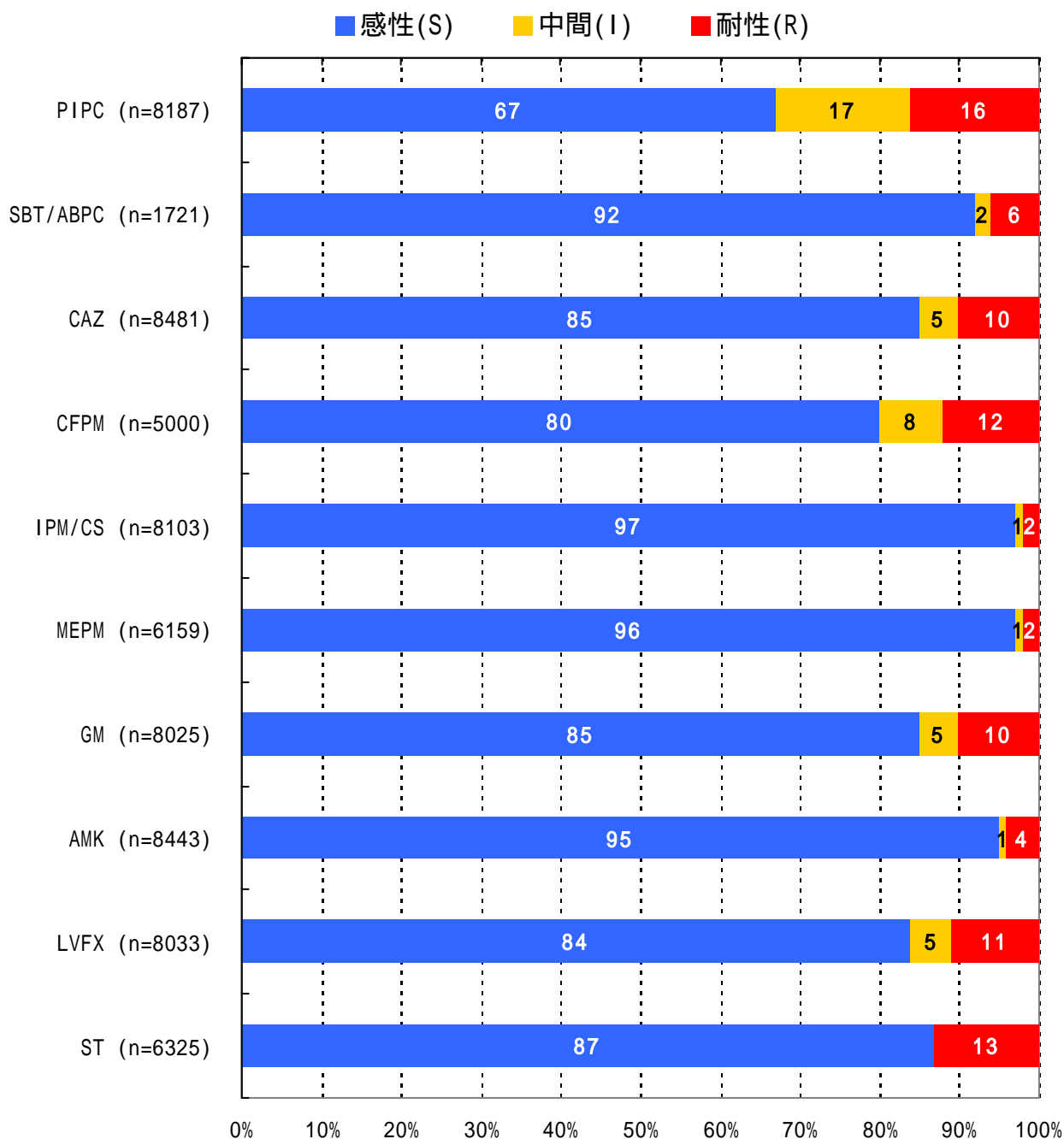
** 菌名コード: 4001と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter baumannii**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

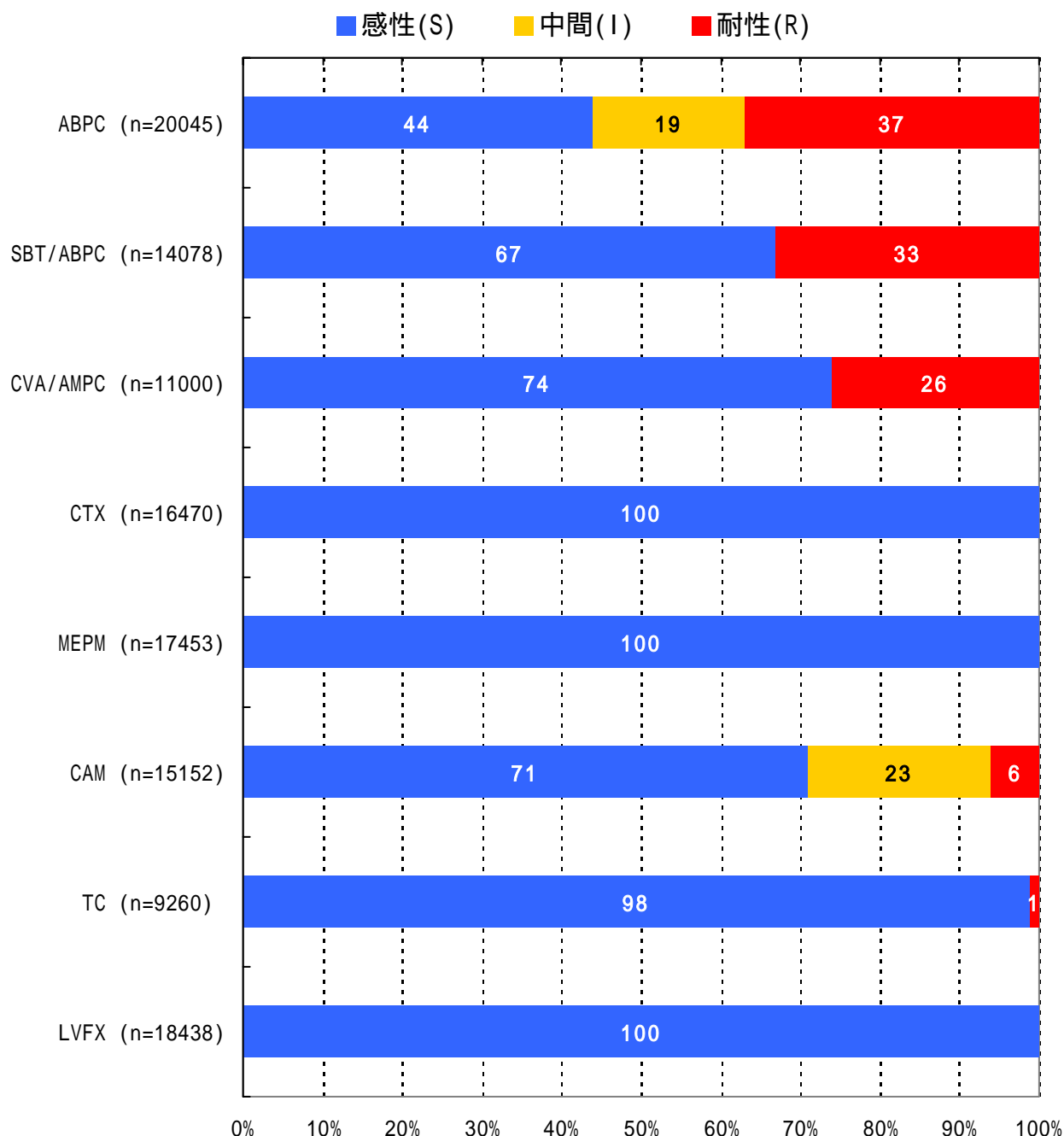
** 菌名コード: 4402と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae**



入院患者として報告された検体を集計した
百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

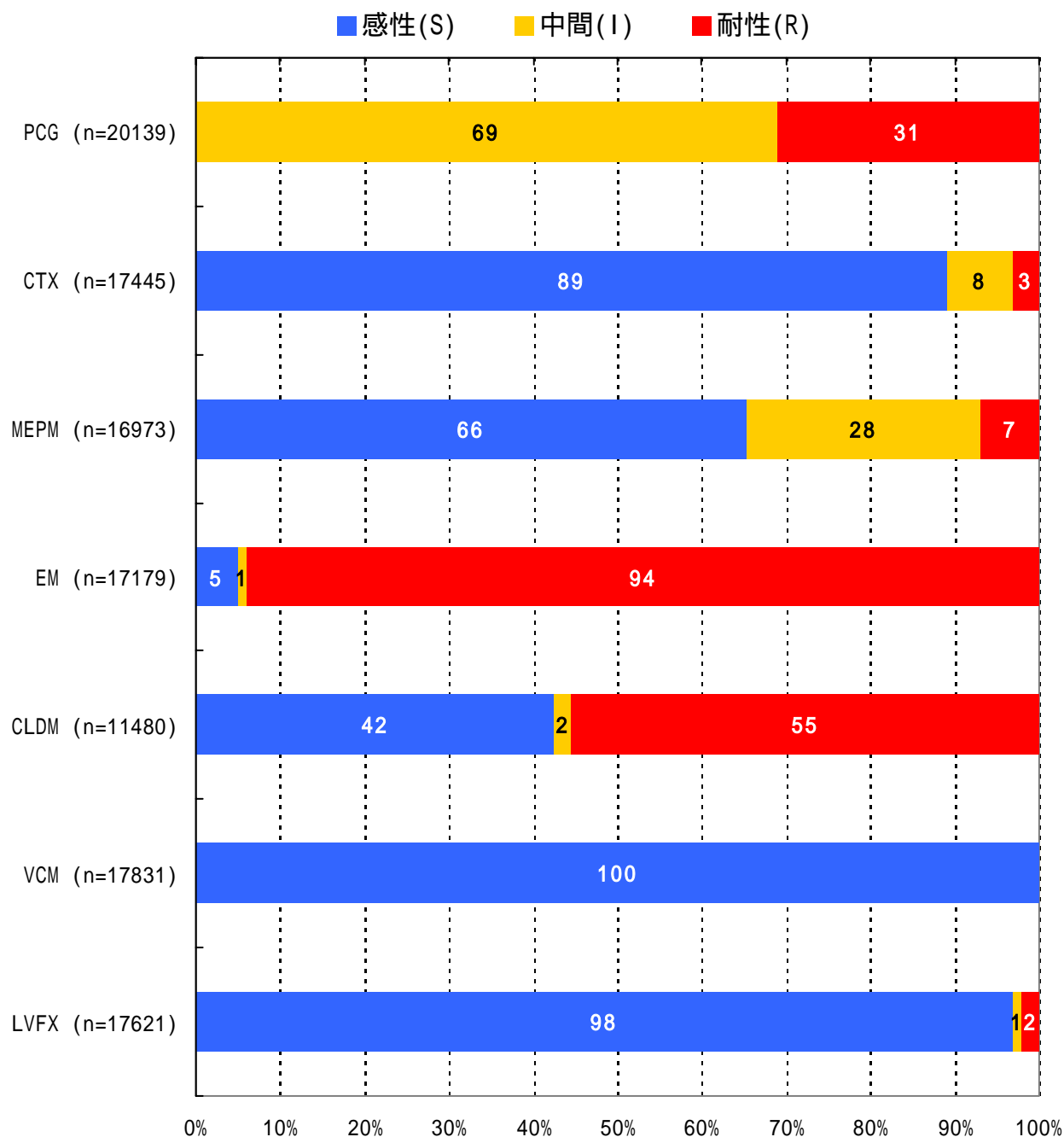
** 菌名コード: 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

2010年報(1月～12月)

6.主要菌の抗菌薬感受性*

Penicillin-resistant Streptococcus pneumoniae (PRSP)外来患者対象**



百分率を四捨五入し整数で表示

* 米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

** 菌名コード: 1131と報告され抗菌薬コード: 1201(ベンジルペニシリン)の感受性結果「I」「I or R」「R」の菌

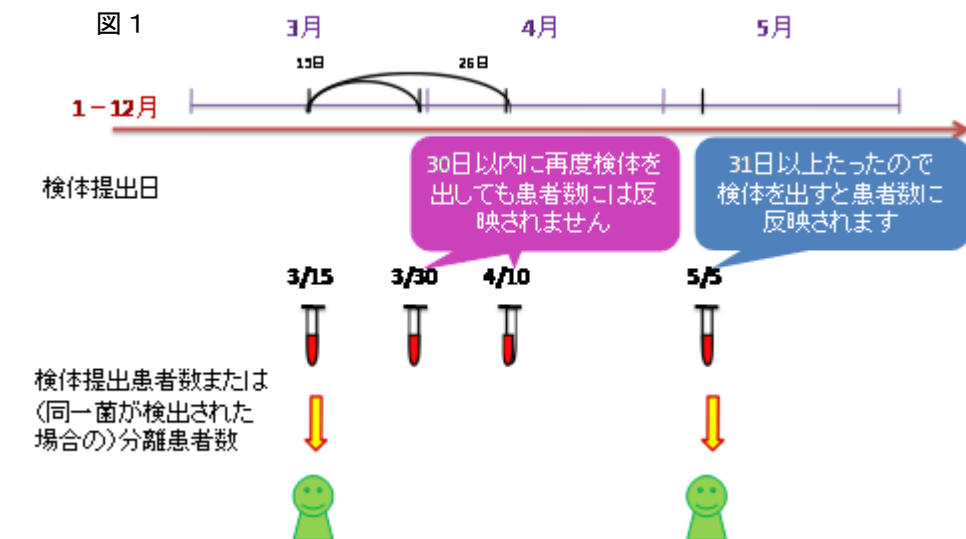
公開情報（年報）の集計方法について

1. 年報における検体提出患者数と菌分離患者数について

検体提出患者数は患者 ID が同じ検体を提出した患者を同一患者とし、菌分離の有無にかかわらずすべての検体を集計しています。ただし、外来検体は除外します。30 日以内に同一患者から検体が提出された場合は重複処理を行い、検体提出患者数は 1 とします。

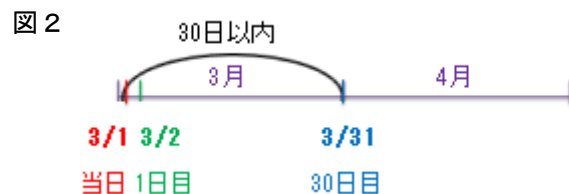
菌分離患者数は、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合は重複処理を行い、菌分離患者数は 1 とします。

30 日を超え継続して同一患者より検体が提出された場合は（同一の菌であっても）31 日ごと



2. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とします。当日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となります。（図 2 参照）



3. 耐性を考慮した重複集計

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合で、かつ共通する検査抗菌薬のいずれかにおいて下記のように感受性結果に不一致がある場合は、異なる菌株として集計されます。

① MIC 値に 4 倍以上の違いがある。

ただし、 $MIC > 2$ は $MIC \geq 4$ と考え、判定時は $MIC = 4$ として扱います。

また、 $MIC < 16$ は $MIC \leq 16$ と考え、判定時は $MIC = 16$ として扱います。

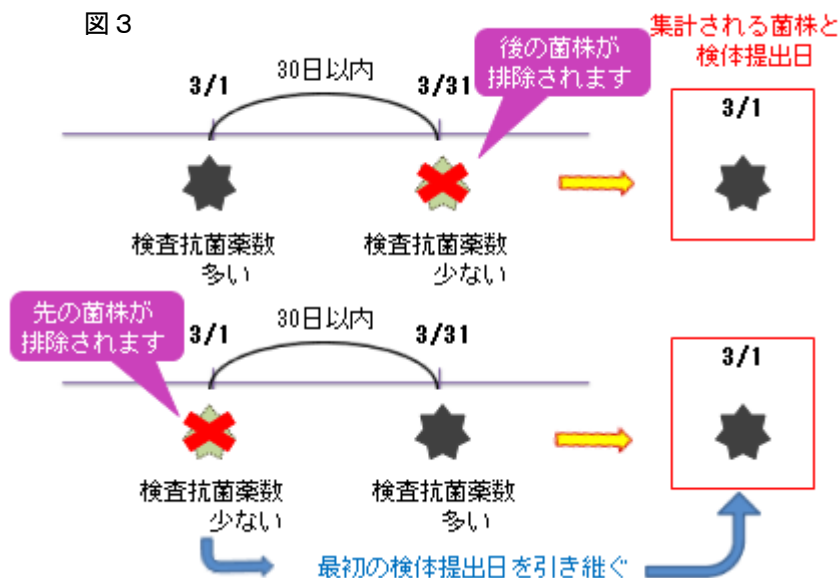
② SIR 判定では S と R の組み合わせ。

③ +/- 判定では、- と ++、または、+ と +++、または、- と +++ の組み合わせ。

なお、感受性結果に不一致がない場合でも、共通する検査抗菌薬数が 5 未満の場合は、異なる菌株として集計されます。

4. 重複処理する株と検体提出日

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が（30 日以内の）後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の検査結果は排除します。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬が（30 日以内の）先の菌株の検査抗菌薬より多い場合、先の菌株の検査結果を排除しますが、先の検査の検体提出日を引き継ぎます。（図 3 参照）



公開情報 2010 年 1 月～12 月 年報

院内感染対策サーベイランス 検査部門



再集計版

公開情報年報、公開情報四半期報の「主要菌の抗菌薬感受性」において、一部の菌種で集計プログラムに不具合があり、該当箇所の再集計を行いました。

<不具合の詳細>

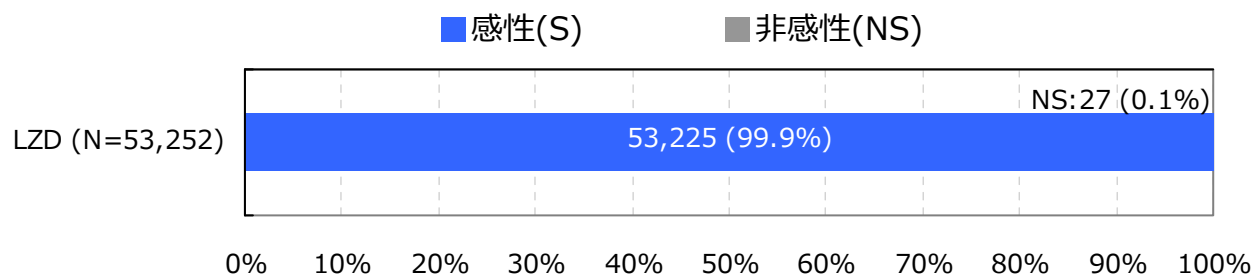
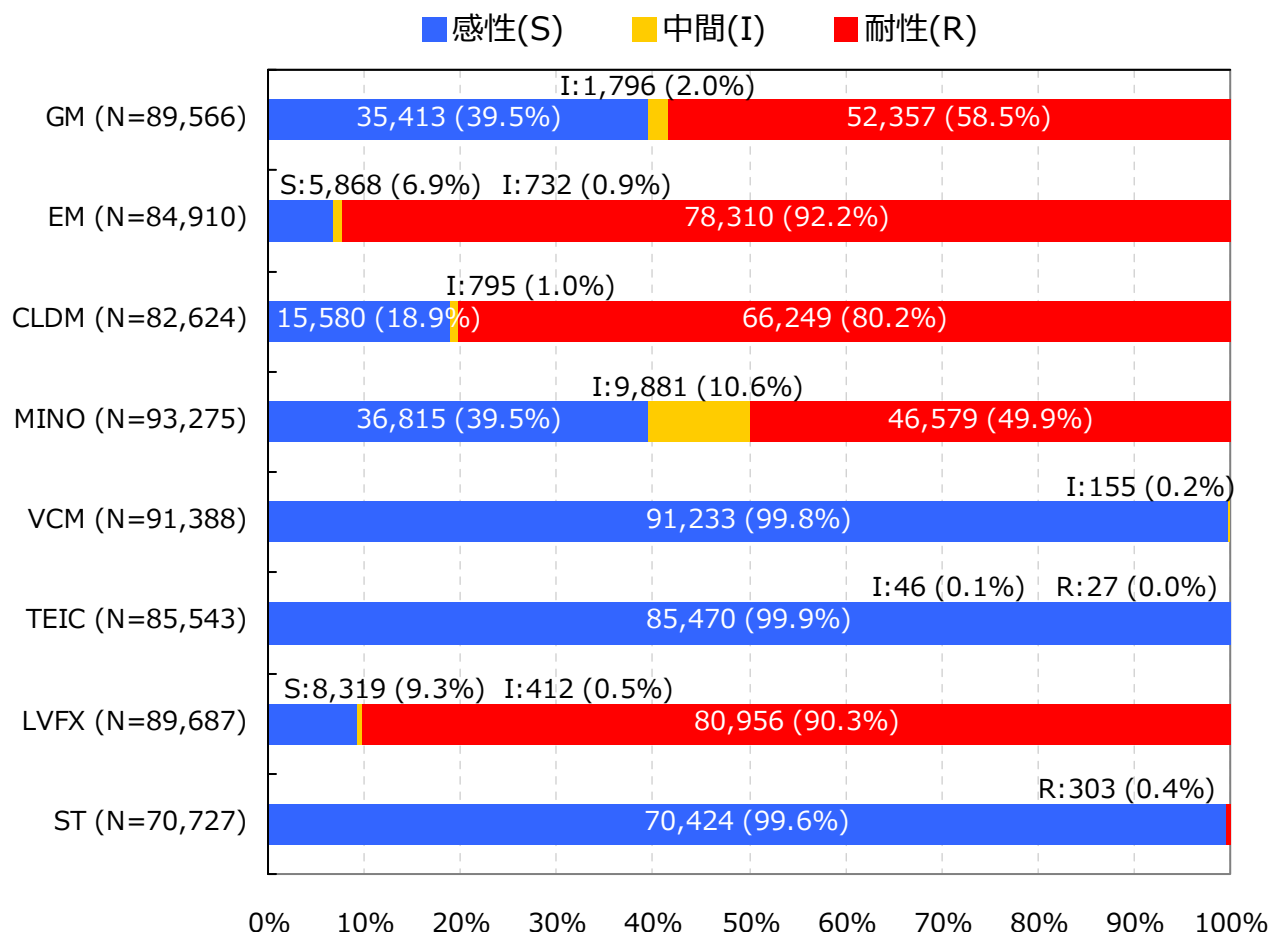
- CLSI2007 (M100-S17) で、[S]の基準値のみが設定され[I]や [R]基準値が設定されていない菌種と抗菌薬において、[S]以外と判定された菌株が集計対象から除外されていました。その結果、[S]と判定された検体だけで集計が行われたために抗菌薬感受性割合の[S]が 100%になっていました。
- 下記 6 菌種-抗菌薬について、[S]以外の菌株を「非感性」として集計対象に追加し、再集計を行いました。なお、集計時期の違いから、2010 年 1 月～12 月年報（2011 年 9 月 2 日掲載）と再集計版では、集計対象医療機関数等が異なります。
- 再集計を行った「菌種」－「抗菌薬」の組み合わせ
 - Staphylococcus aureus* (MRSA)・・・LZD
 - Streptococcus pneumoniae*・・・VCM
 - Streptococcus pyogenes*・・・PCG、ABPC、CTX
 - Streptococcus agalactiae*・・・PCG、ABPC、CTX
 - Haemophilus influenzae*・・・CTX、MEPM、LVFX
 - Penicillin resistant *Streptococcus pneumoniae* (PRSP)・・・VCM

注) 2010 年以降は、年報集計時に国内で過去に報告が無い薬剤耐性菌（特殊な耐性を示す菌：カテゴリーA）について、その内容を確認する精度管理作業を実施しております。これまでに報告された該当データはすべて誤りである事が確認されており、集計時には修正されております。

ただしこの精度管理作業を経ずに集計された 2009 年以前の年報には、*Streptococcus pneumoniae* (PRSP を含む) の VCM 非感性(NS) および *Streptococcus pyogenes* の PCG、ABPC 非感性(NS) の報告を認めます。

7. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

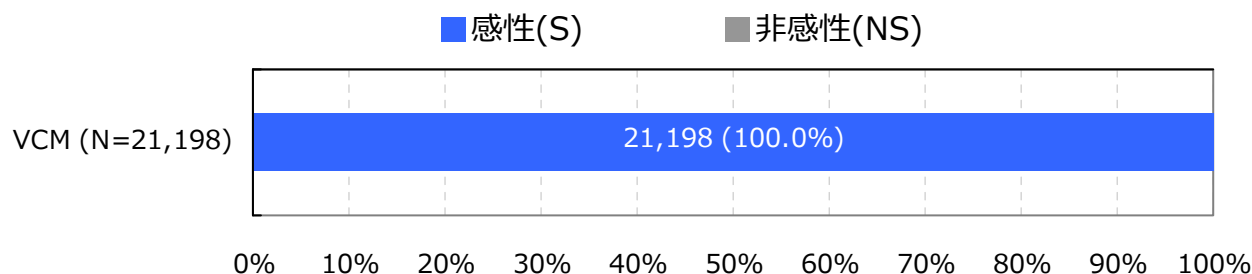
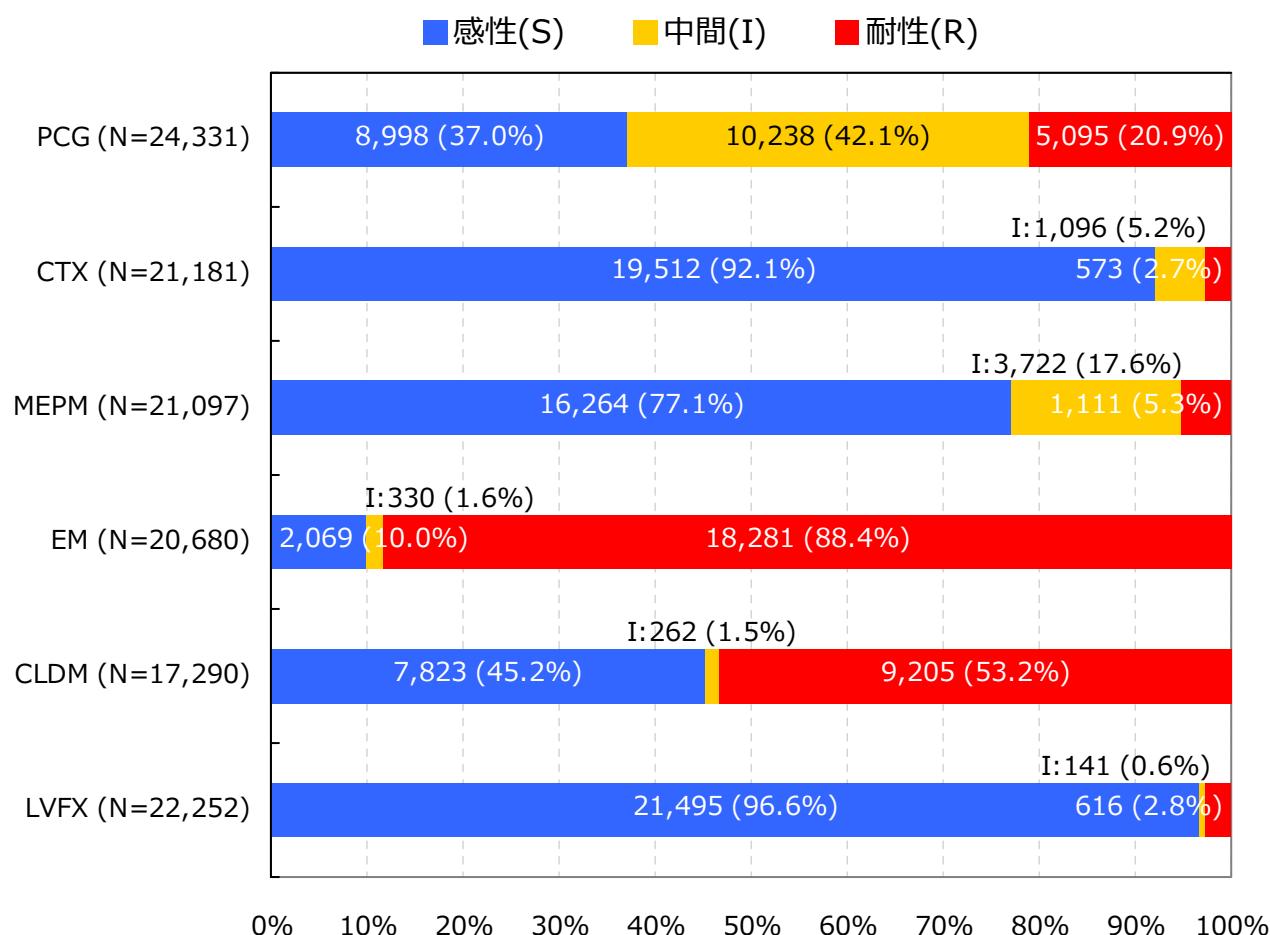
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン)の感受性結果「R」の菌

7. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

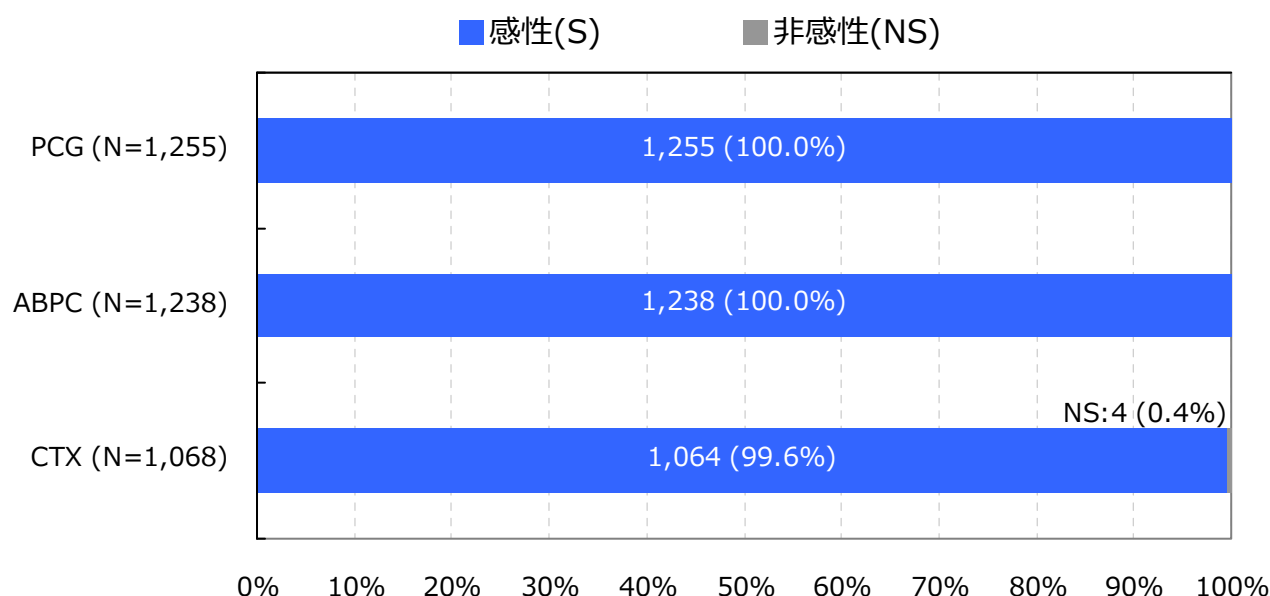
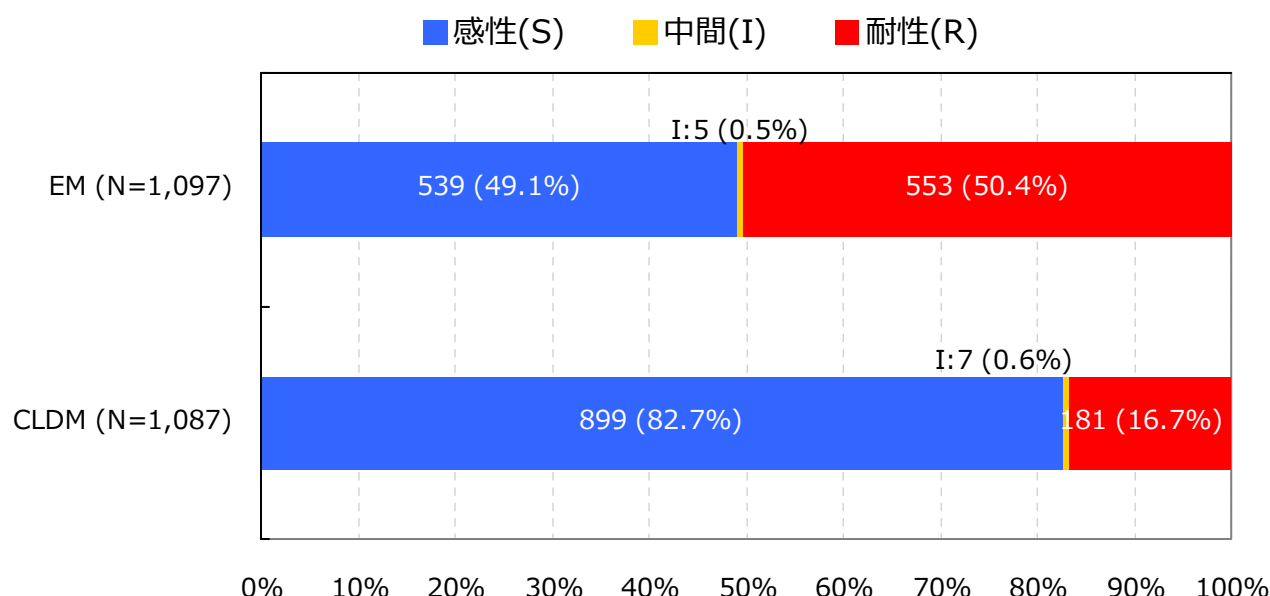
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード: 1131と報告された菌

7. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

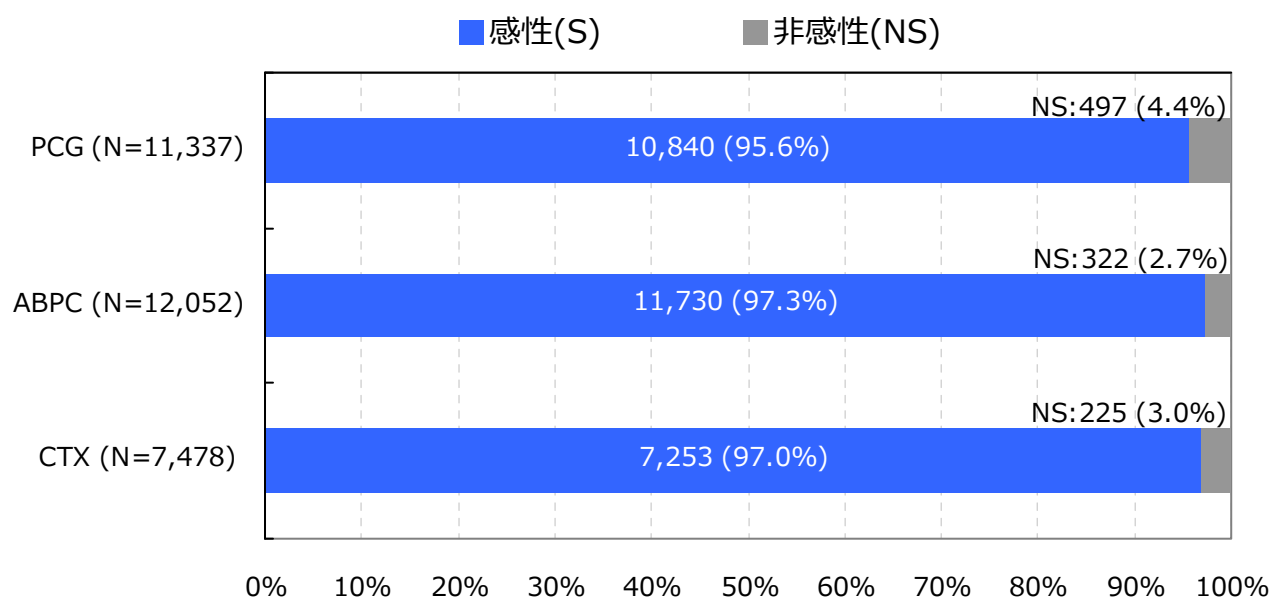
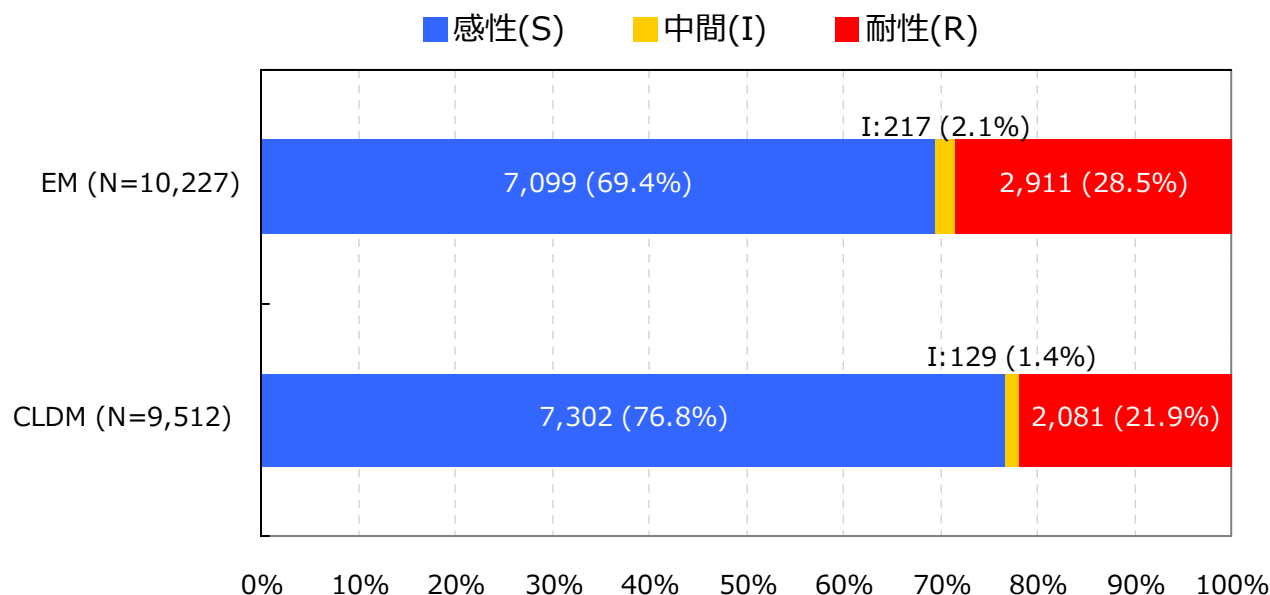
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード: 1111と報告された菌

7. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus agalactiae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

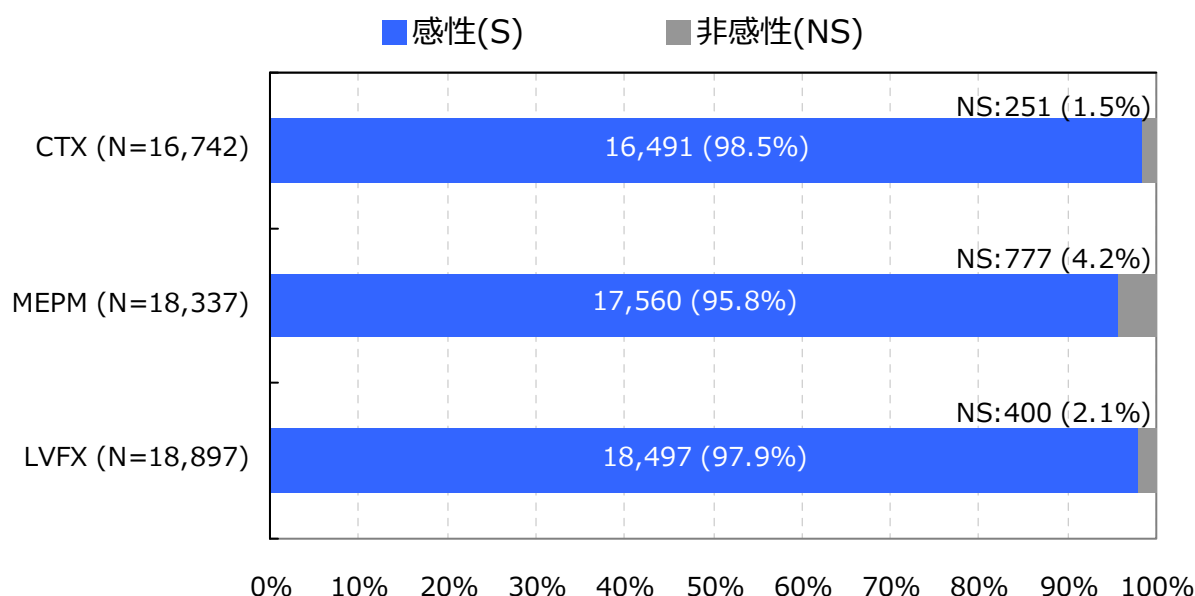
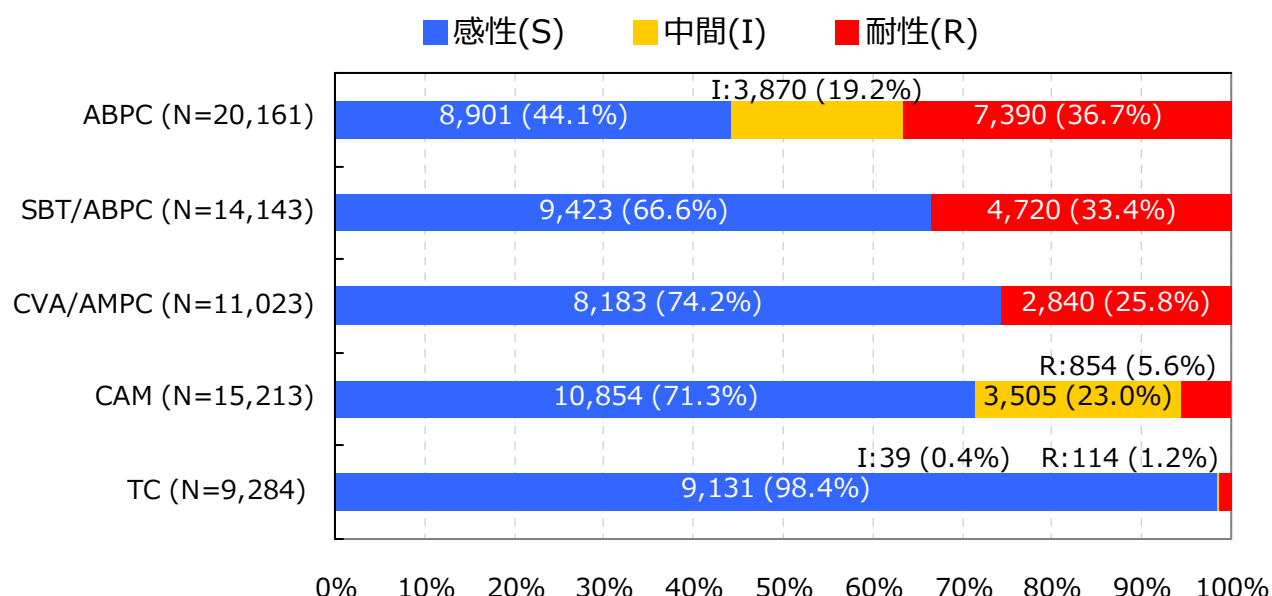
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード: 1114と報告された菌

7. 主要菌の抗菌薬感受性*

Haemophilus influenzae †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

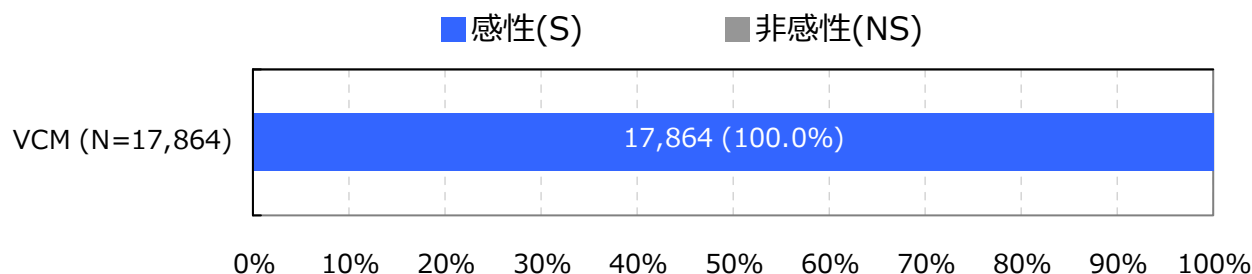
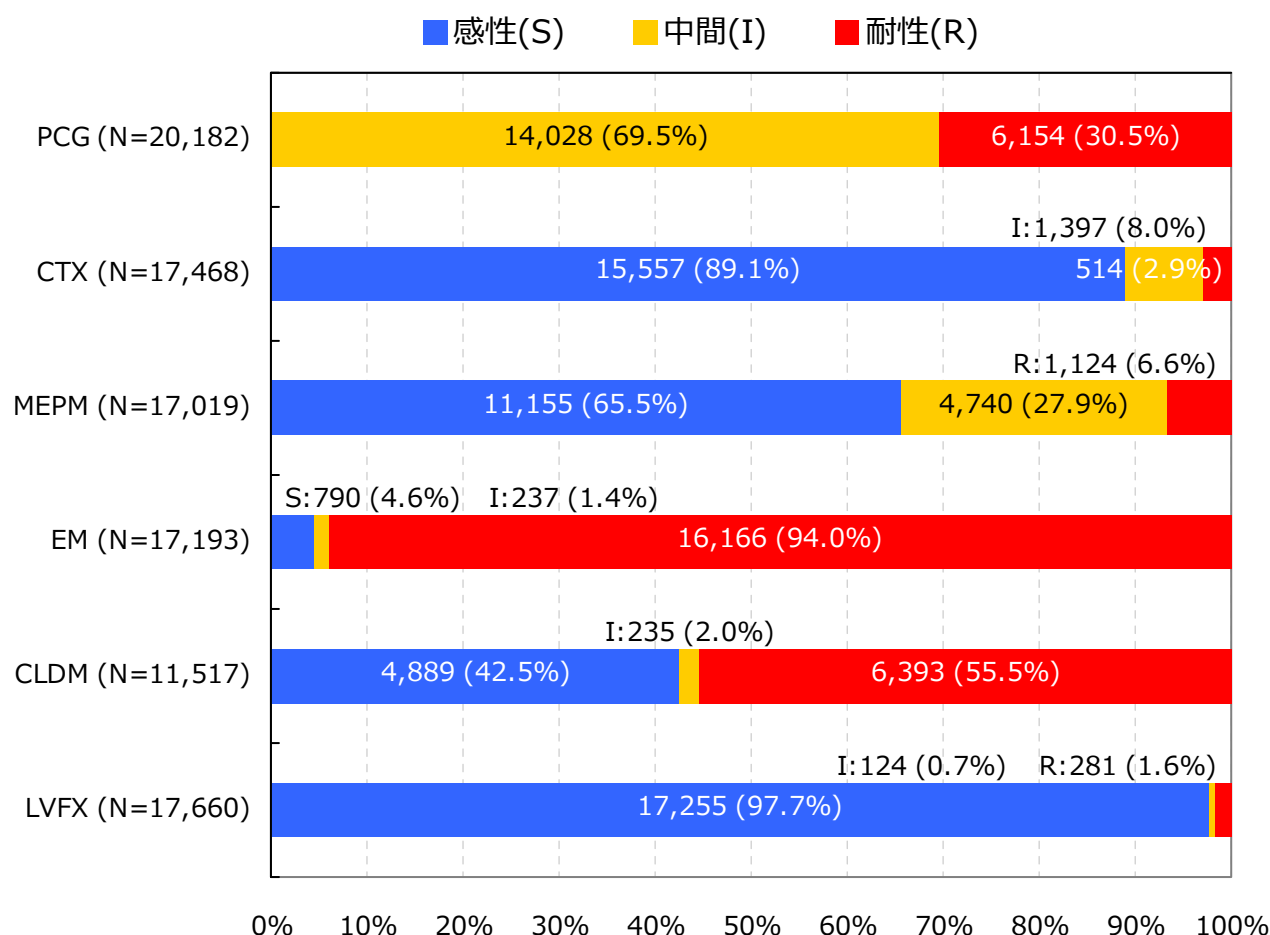
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

7. 主要菌の抗菌薬感受性*

Penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae* (PRSP)外来患者対象†



外来検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード: 1131と報告され抗菌薬コード: 1201 (ベンジルペニシリン) の感受性結果「I」「I or R」「R」の菌